男女貞潔之理想　　公娼廢止之主張

會長　島田三郎　　副會長　安部磯雄

廓清

第六卷第七號

□廓清時言……伊藤江南
□青年の進歩と廓清問題……衆議院議長　島田三郎
□所謂私娼撲滅……救世軍大佐　山室軍平
□學生貞潔の擁護……同志社大學長 哲學博士　原田助
□盆踊禁止論……群馬支部委員　森川抱次
□存娼より廢娼へ……廓清會理事　油谷治郎七
□小兒科より觀たる花柳病……醫學士　涌島雅藏
□公娼制度か私娼制度か……醫學博士　片山國嘉
□教育都市の岡山に……法學士　服部純雄
□驅り出された私娼の行衞……性慾問題研究家　澤田順次郎
□大正四年度事業報告……廓清會理事　益富政助
□女子教育者の罪……貴族院議員　江原素六
□天皷の響……同志の聲
□飛田問題に對する覺悟……大阪矯風會長　林歌子
□廓清春秋……河合北洲

東京　廓清會本部　發行

（大正五年七月一日……本）

3—775

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ライオン歯磨
ライオン石鹸　本舗　小林富次郎

社會のバチルスを
掃蕩せむとする
「廓清」の任は重し
口中のバチルスを殲す
ライオン歯磨の効は
疑ふべからず

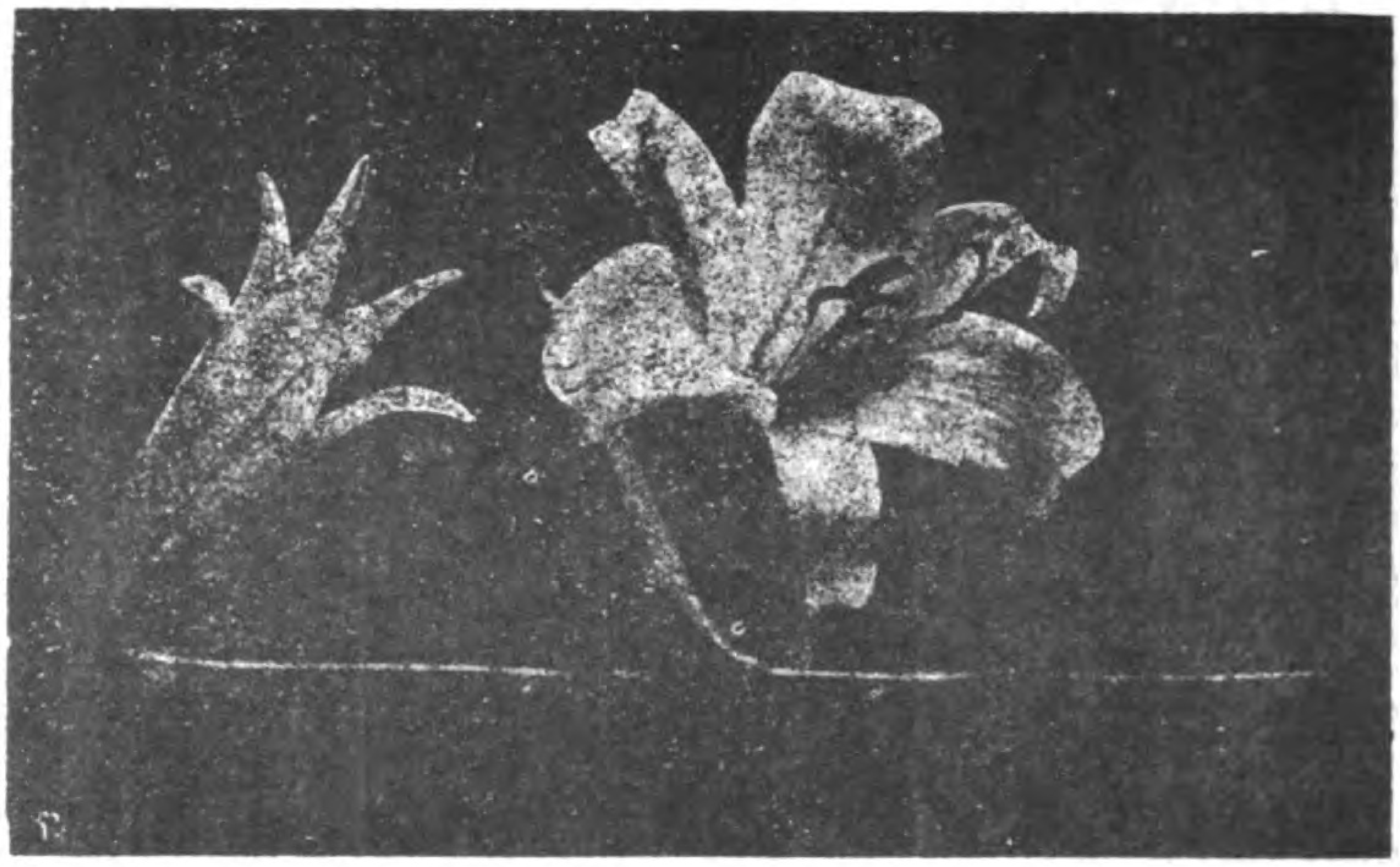
新築營業所　東京　本所區外手町

廓清

THE PURITY.

大正五年七月號

第六卷第七號



廓清時言

創立五週年を迎ふ

明治四十四年四月吉原遊廓燒くるや、之が再興反對の運動をなしたる有志は、根本的に廓清の思想を鼓吹するの必要を認め、七月八日を以て廓清會を發會し、我國に始めて組織ある純潔運動を見る事となり、『男女貞潔』『公娼廢止』の旌旗を翻して天下に呼號し、些か社會と人道とに貢献したるもの今日を以て滿五年に達したり。吾人は今や軍容悉く成り、旗鼓堂々敢て天に代つて道を行ひ、日東君子國をして賣淫國の汚名より救はんとす然るに見よ、積習は良智を痲痺して大正の昭代今猶野蠻極まる醜奴の制を支持擴張せんとするものあり、東西兩都の市民は此暴政の犧牲となつて家庭の純潔を脅迫せられつゝあり。家貧にして孝子出で、國亂れて志士出づ可くんば、今や正に一片耿々の志ある者の駒を陣頭に進め、吾人と共に尊き人道戰を試むべき秋に非ずや。男女問題は實に平和問題、勞働問題と共に二十世紀の三大問題也。嗚呼神州清潔の民、爾の眠り何ぞ夫れ深きや

性慾追求の現代生活

性慾は人生の一大事實也。見よ彼等の有する音樂は、殆んど之れ性慾追求の音樂に非ずや。見よ彼等の有する演劇は、殆んど之れ性慾追求の演劇に非ずや、見よ彼等の有する舞踊は、殆んど之れ性慾追求の舞踊に非ずや見よ彼等の有する文學は、殆んど之れ性慾追求の文學に非ずや。彼等は其處に堂々たる公娼制度を設け、彼等は其處に華々しき藝妓制度を持し、彼等は更に紛々たる白首の群を有す。現代日本の文明は性慾中心の文明にし

て、國民の生活は、畢竟夫れ性慾追求の生活乎。

云ふを休めよ、性慾は至美にして至純也と。然り吾人は如斯人生の大事實なるが故に、如何に之を善導し、高尚なる而して幸福なる解決をなす可きかを講ずるのみ。而して現代人の生活の餘りに醜惡不純にしてさかりのついたる野良犬の如き態あるを歎ずるのみ。而して教育を語り宗教を論ずるの徒が、滔々として淫風の吹き荒むに委し、此の大切なる性慾倫理を說かんとも得せで、人生の大事實の前に其の耳目を瞽して、死せる教育と、死せる宗教とに、沒頭しつゝあるを悲しむのみ。

陋劣な府會と警視廳

警視廳が私娼撲滅公娼擴張の策を立して之を勵行するや、東京府會は私娼に對する取締が峻烈に過ぐとて之を緩和せん事を强要せんとす、時代錯誤の公娼制度を無理に守立てゝ擴張せんとする警視廳の愚は既に說きたれど、更に之に辶をかけたるものは東京府會也。

若し公娼制度の廢止を提唱して他面に私娼の存在を或程度に認めんとするものならば、勿論一個の議論たる可し、然れども、東京府會は曩日公娼の年齡を殘酷にも十五歲に低下せん事を議決したる程、亂暴なる公娼制度の擁護者なる上、更に他方私娼をも保護せんとするものなるが故に、賣淫奬勵たるの醜を天下に示し、警視廳が無學にして公娼の利益を信じたりとは云へ、風紀衛生の二點より私娼撲滅に力を盡すの實情は、之を嘉す可きに比し、帝國の摸範たるべき東京府會の陋劣破廉恥は言語に絶せずや。

詩人乎紳士乎

タゴール來、タゴール來、ナザレのイエスに拜跪せるイスラエル人の如く、印度の詩聖タゴールを迎へて我が思想界は彼の周圍に蝟集して禮讃隨喜しつゝあり。彼の偉大なる元より吾人の尊敬に値すと雖も、偶々吾人はタ氏來によつて、我國の思想家藝術家の腦裡に甚だ不健全なる、甚だ時代遲れの思想の暴露せられつゝあるを悲しむ。

タ氏の某々の新聞社學校へ出演の約を破棄したる事の事實なるや否やは余の知らざる處なるも、詩人なるが故に約束を守らざるも可なり、詩人は天地の大靈に冥合する藝術家にして、瑣々たる人世の羈絆に拘束せらるべきに非ず、となすが如き思想の表現せらるゝ事は吾人の不滿に不堪處也。此思想の產む處は即ち耽溺生活也。蓋し詩人とは自ら氣の向くまゝ今日は彼方の岸に咲き、浮世の準繩規矩に超越する者なりと云はゞ、そは畢竟野獸と選ぶなき原人に過ぎず、社會生活を拒否し人生を侮辱する者也。少くとも今後詩人は同時に紳士たらざる可からず、少くとも新人は、藝術家は道義を以て律す可き者に非ずとなして淫逸を事とするが如きものを排し、純潔なる藝術を創造し、紳士たる詩人を要求せざる可からず。（江南）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

創立五週年大會に臨みて愈會員諸君の奮闘を促す

衆議院議長
廓清會々長　島田三郎

□青年の進歩

私は暫く病氣の爲め公會の席を外して居つたが、本日は廓清會の總會があつた爲め此席に列する事となつた。私が此の廓清會の集會に臨む毎に感ずる事は、今日の青年と五年十年以前の青年の態度の相違である。以前は如斯多數の人が靜肅に研究的會合を開くといふ様な事は思ひも寄らなかつたのであつて、近來の如く廓清問題に對して眞面目な議論の起るのを見るは、社會の進歩を證するものとして、私は今日の青年に多大の望みを囑するものである。

然るに國家の制度が文運に逆行し、却つて風紀頽敗を誘發せんとするが如きものあるは痛歎に堪へない處であつて、飛田問題の如きは其好適例である。大阪市民が口を揃へて一齊に必要とせずと叫びつゝあるに對して、態々制度は淫蕩を奬勵せむとしつゝある。東京に於ける警視廳問題にしても、私娼を抑制せんとするは甚だ結構であるが、他方に公娼制度を勵ますが如きものあるは、又時勢の逆行と論せざるを得ぬのであつて、廓清會の批評を免るゝ事が出來ない。

私娼は隱れて居るから取締が困難で弊害が多く、公娼は一定の地區に制限して之を取締るが故に梅毒の防禦が稍容易であるとするのが公娼制度を擁護する者の論點であつて、他に人性問題がある。即ち人には自然の性として性慾は抑制されない。恰も水流を堰止むるが如く却つて勢ひを促がすものであるから、寧ろ適當な機關を設けて之を許すのである。人生の要求ではあるが之を他に轉流せしめんとするが如き廓清會の主張は實際的でないとする。

□病毒の危險

病毒を恐るゝ事に就ては我々も敢て當局者に劣るものではない。我々は常に此事に就ては研究をして居るのであつて、近頃内務省で花柳病の講習會を開いた。これに出席した青森縣の或る肥料專門の醫師が私にいふのに、梅毒と眼病とは密接の關係がある。眼病中の大なる割合は梅毒淋毒が原因となつて居る。此病毒を眞箇に防禦する事が出來るならば、眼病患者の三分の一は確に減ると言明した。而して氏は公娼に梅毒の根治をのぞむは到底無理な事であると論結してゐた。氏の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

話によると神經痛と稱するものは此梅毒性に起因する者多く瘰癧と云つて瘤の如く身體に固り凝るのも梅毒性が多いといふ事であつた。病毒の激烈を知りこれを畏怖する點に於ては、廓清會は決して當局の人達に劣る者でなく、寧ろ此以上の熱心を以て性慾問題の解決に研究を進めて居る。故に此病毒に對しても最善の方法を講じ、國家を安泰の上に置かんとする志望に於ては當局者と同一であつて、如何にして之を防ぐ可きかといふ實行問題に至つて、當局者の意見と我々とは相距る百里の感がある。本日の總會に於て安部磯雄氏の語る處によれは、紐育のロックフラエー研究所に於て、歐洲各方面よりも各專門家が出席したる其席上にフレッキシナの說明する處を聞くに「花柳病を防ぐ爲に現今各國に行はれつゝある檢梅の如きは形式一片のものにて全く不完全である。病毒を防ぐには彼等賣笑婦に接しないより外はない」と斷言したとの事で、我國より進んで居る諸外國の檢梅法すら如斯一言の下に論破されて了ふのであるから、況して不完全なる我國の檢梅なるものゝ效果に信を措く可からざるは勿論である

□國民の自覺を促す施設に出でよ

人の德性を傷け身體を害ふ病毒の豫防が、各自の自覺に俟つ外ないとすれば、現今の公娼制度は果して此自覺を促進せしめんとするものなりや否や。現今の私娼は元より不可である。彼等は密なる賣淫婦に非ずして公に跋扈しつゝある、明治の時代に於ては掏摸は下級の警吏と牒じて必要な機關の如くなつてゐたが、龜井總監の英斷によつて我々如き者も掏摸の難に會ふ事が稀になつた。私娼も亦如斯大に檢擧すれば從て社會の害毒を減ずる事が出來るに違ひない。故に梅毒傳染に關して私娼の掃蕩に力を盡す事は贊成であるが、當局者は私娼の要求を比較的取締りの容易なる公娼に轉せしむるにあると辯じて吉原其他の擴張を行ふてゐるけれども、これ研究の淺薄より來る大失政で、監視の容易なるを口實に、實はフレキシナの所謂自覺を促すに反する施設をなすもので、其結果は一層風紀頽敗となり病毒の蔓延となるべきは甚だ睹易き道理であると思ふ。

之を我々の立場より論ずれば、先づ公娼制度を廢して、絕對に醜業なるものを許さず、陰に醜業を營む者あらば之を警察の簿に登記し、現在の檢梅方法に準じ檢梅日數を增加し、以て嚴重に取締るに至らば、風紀の振肅期して待つべく、國家民人の利福は日を逐ふて著しくなるであらうと思ふ。

□男子の要求を制減する策を立てよ

公娼制度を目して人生止むを得ざるの制度なりと辯護する人達は此點に着目して貰ひ度いのである。勝負を好み賭博を愛するは人生の止むを得ざる短所であるが、國家は之を禁壓しつゝある。乞食は都會到る處に跋扈して醜態を極め、都市の體面を汚辱するのみでなく、動もすれば財產の侵害となり易い處より之を咎め、露國皇太子殿下御來遊の砌り國家の體面上今の小石川の發育院を建てゝ之に收容したので始めて道路に横行しなくなつた。阿片は支那の元氣を根底から破壞する亡國の嗜好品であつて、一度喫煙の味を覺ゆれば命を短め

ても止める事が出來ない。日本は幸に此れを禁絶する事に成功して此害を蒙らなかつたが、これを國民生活に離る可からざるもの也と云つて公設喫煙所を設けて家庭の喫煙を取締る事にしたならば、其結果は如何であらう。

要するに害毒は根絶の方針を立てゝ、其禍を輕減するの工夫がなければならぬ。單に私娼を撲滅するのみで、公娼を擁護擴張するは、賣笑婦に對する男子の要求を制減する所以の道でなく、却つて淫風を煽るに過ぎないのである。

□道德的意識の麻痺

此の人生の大問題が下劣卑賤の事として、久しく士君子に顧みられなかつたのは大なる國家の損失であつた。又家庭の大なる不幸であつた。近來漸く眞面目なる研究が開けて來た感あるは我々の喜び禁じ難き現象である。唯今吉田博士の御高演に於ける高等教育を授けた婦人に、貞操に關する質問をせられた如きは、全く時代に適應した考へであつて、我々の感謝し且つ力強く覺えた處である。女子は貞節を要し男子は貞節を要せずとなして、國家が之を公認し、女子の一部を男子性慾の犧牲とするといふ事は、國家の德性をして墮落せしむるものと斷言するを憚らぬのである。

性慾は婦人にも等しくあるに拘らず、吉田博士の說によつても婦人は男子に比し貞操に對する考へが甚だ眞摯である。これは社會が婦人に對しては貞操を强ふる事が嚴重であるからといふ點に歸さなければならぬ。男子に對しても亦社會が婦人に對するが如き制裁を與ふるに至るならば、男子も亦婦人同様其貞操を守り尊むに至るに相違ない。

青森縣の醫師の語る處によれば、八戸町の或村では、婦人は必ず公娼として之を遊廓に送るべきものゝ様に考へ、家常茶飯事と現在も行はれてゐる。其村は公娼の輸出所ともいふ可き處で、漁村ではあるが貧富を問はず必ず娘が年頃になると之を賣るといふ習慣であるといふ。之等は我々が考へてさへ一寸信を措き兼ねる程の事實である。乍併國家が公娼を社會の安全辯として必要なる害惡として考へてゐる間は、此村の如き露骨なる表現は澤山の例がなくとも國民の精神に、少くとも國民の潛在觀念中に、賣淫を忌むの觀念を鈍くし、其道德的意識を麻痺する事を否定する事が出來ない。

□一層の勇奮を望む

當路の人達の仲には友人も少くないが病膏肓に入つた人を說くのは殆んど益がない。寧ろ去つて此問題に對する教育運動を盛んにして、先づ青年から根本的に誘導しなければならぬと考へてゐる。と云つて我等は決して悲觀するものではない、公娼制度が種々の手入を要するだけ滅亡の運命を辿りつゝある事を證するものであつて、遠からず凱歌を歌ふの秋が來るべきを確信してゐる。

顧みれば廓淸會創立以來五ケ年微力なりと雖も吾人が熱烈なる運動の効果は、決して空しくはなかつた。余は茲に謹しんで諸氏の勞を謝すると共に、愈々結果を堅くし『男女貞潔』『公娼廢止』の二大旌旗を全國の津々浦々に翻して、社會と人道との爲に勇戰せられむ事を熱望する。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

存娼より廢娼へ

廓清會理事　油谷治郎七

□花柳病學者の實驗

ドクトル、フォン・デューリングは花柳病專門の醫學博士であり、千八百九十年より千九百二年まで十二年間、獨逸政府の命を帶びて小亞細亞に在りて、花柳病撲滅に盡力せられ、後千九百二年獨逸のキール大學醫科敎授に任せられ、歐洲戰爭の勃發するや、バーデン・バーデンの療養院主幹を命せられて今尙現職に在る著名の醫學家である。博士は始め衛生上の立場から熱心なる存娼主義者であつたが、多年實地の經驗と學術上の研究との結果、痛く公娼制度の非を感じて熱心なる廢娼主義者に變じた。其變說、寧ろ其改信の理由を詳かに公にせられたものがある。之によるに博士は最初小アジアに於て大仕掛で花柳病の撲滅に着手したが、公娼制度の檢黴組織の有効なるを信じて、學問上よりも實際上よりも毫も疑を挾まずに居つたのである、博士は曰く、

『殆んど無限の權力を與へられて、余は直ちに効果を奏し得ると信じて着手したのである。あらゆる權威は余の意の儘であつた。花柳病に罹れる婦人、若くは其嫌疑ある婦人は悉く拘引し留置する權力をも有して居た。而して警官は旨を含んで町邑村落到るところより賣春婦を伴ひ來た。余は多妻主義の國に於て娼婦の多きに驚いた。然しながら暫くにして余は余の方法の効なきを悟つた。第一、警官は十分の權力を有すれども、用心深き婦人は警官の眼を避るに巧みであるがためと、其他の理由のために檢黴院に伴ひ來る數は益減ずる。第二、余は是等の婦人を實際長く留置く方法に苦んだ。第三、是等の婦人に治療を施して其症候が一切無くなつたけれども、彼等は尙危險である、尙ほ最も傳染力を有し、二十四時間内には新に他に傳染するものなることを余は知つた。』

□改良の餘地を有するや

博士は斯く其娼婦取締方法の衛生上効果薄きを知れども、是は特別のものにて、歐洲一般の制は正に有効なるべしと思ふておられたのであつた。恰も此時に際し、千八百九十九年ブラッセルに催したる萬國花柳病大會の報告書は達した。書中佛國巴里のフイオウの報告がある。公娼制度を有し最も技倆ある專門醫を有して其病毒を防ぎつゝある巴里に於ても、此制度の効なく寧ろ害多きことを證明せるあり。他の著名なる專

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

門家も各所の經驗を綜合して公娼制度の實際に於て病毒を防ぐの力なきことを立證するもの少からず。博士は惑はざるを得なかつた、而して深く考へた。博士は曰く、

「問題は直ちに余の胸に湧く、公娼の制度は誤れるか、若くは又此制度の運用は當を得ざるか。公娼制度は未だ誤れりとは思はなかつた。多くは其制度を是認するも大に改良すべき必要を感じてゐた。即ち娼婦取締を警察の手より衛生局の醫士の方に移すこと、密娼を嚴重に取締るべきこと。凡ての娼婦及び賣春婦なりと嫌疑あるものは十分嚴密なる監督の下に置き、花柳病を患ふるものは其全治まで、即ち梅毒の場合には三四年間も隔離すべきこと、娼婦は出來るだけ隔離せる娼家に住ましめ、毎日檢黴法を施し、周到なる檢査（顯微鏡を用ゐて）を加へねばならぬ。」

□各學者の無効論

博士はキール大學の醫科教授となつたが、尚ほ此問題は疑ひのうちにあつた。千九百三年フランクフルトに於ける萬國花柳病會議は開かれた。報告の最も注意を惹けるものは、獨逸ブレスロウ大學の教授ナイサーの提出されたるものである。此問題に關しては獨逸醫學者のうち最も權威を有する醫學教授であるが、ナイサー博士は娼婦を强制的に衛生上の取締の下に置くを以て、社會衛生の上より必要なりと見、然かも現今の娼婦取締制度を以て適當のものでないと見る、其學理も實驗も衛生の見地に反しておると論じておる。ナイサー教授の論點は要するに下の五條である。

第一、公娼制度は理論上及び實際上、法理的基礎を有せす

第二、娼婦をして衛生上の便宜より全く警察の取締の下にあらしめ、公然たる營業者のごとくあらしむるに於ては、其婦人が正しき生活に復歸するは極て困難なるに至る。

第三、病患ある娼婦は警察の手に委ねられ、若くは病院に入るを恐れ、其病を隱蔽し醫師の診斷をも避くるに至る。

第四、警官は其取締の下にある娼婦に及ぶべき社會上及び法律上の影響を顧慮し、成るべく怪しき婦人の行動を嚴重に取締る事をなさゞるに至る、且又警官が嚴重に取締るべき凡ての婦人に應ずるに足る十分の醫師と病院の設備あることなし。

第五、娼婦の衛生的取締は決して健康の保障を與へ又は傳染の憂なきまでに行屆くものにあらず。而も是等娼婦に接するものは其取締制度の有効を信ず、有効なりと信じ安んじて多く之に接するが故に、此制度は衛生上の危險を增すものなり。

ナイサー博士は娼妓制度を是認して、而かも其取締の効なく却つて有害なることを指摘すること斯くの如し、是れ公娼全廢論者たるフイオウの所說と異るところあらず、千九百三年の萬國花柳病會議の後、フオン・デユーリング博士は、全く廢娼主義者となつたのである。

□常識論と學術論

此のち佛國々會の此問題に關する調査委員の報告書は發表せられた、フイオウの「風紀警察」二卷と「風紀の新しき政策」

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一卷は公にせられた。共に此問題に關する無比の光明を與ふるものである。調査委員會に於て花柳病專門大家フールニエの述べたるものは、最も世人の耳を傾けしめたるものであるが、要するに二點に歸する。一は常識論で、娼婦を檢し其病めるものを病院に入れて治療を施す現今の制度は、病毒傳染の源を除くものであると云ふ論で、即ち今日の公娼制度是認論である。二は醫學上の論で「彼等は洗滌せられたり然れども治癒せるものにあらず」と云ふ有名なる語によりて示されたるごとく、現今の衛生制度の無効論である。デューリング博士は曰く、

「此の常識論は事實に於て危險なるものである。余は自己の經驗と良心に基きて明言するが、如何なる醫師も娼婦に現今の檢徽法と治術を施したる後に於て、已に健全なりと責任を以て宣言し得るものはない。吾人は痳疾患者を治療する場合には短くも三週間より五週間、時には三四ケ月を要する而して治癒せりと認めたる後も全く傳染するとなしとの保障を與ふることを得ず、十分の警戒を加へ亂酒及過度の刺激を愼ましむ、若し其患者が治癒せるのち結婚せんとする場合には、更に嚴密に檢査し注射を以て反應の有無を檢し幾度か顯微鏡的診檢を行ふたる後にあらざれば、全く傳染の憂なしと斷言することを得ず。梅毒の如きは三年四年若くは五年のあいだ警戒するを必要あり、治術を施して症候も消え、何等の患なきが如くに見ゆるも、患者は健康の人に接するを愼まねばならぬ、其親しきものゝ口又は頰に接吻せざるやうに戒ねばならぬ。是は普通醫師の患者に對する態度であるが、今夫れ娼婦の場合を見るに、痳疾の娼婦の入院日數は二十二日より四十日である。而して娼婦は全治せるものとして退院する、其退院後の生活は直ちに不衛生の極である、其病毒を刺激するは火藥にマッチを以て點火すると同じ。正に是れフールニエの謂ふところの『洗滌せられたり然れども治癒せるものにあらず』梅毒患者たる娼婦の場合は尚甚し、彼等は警察醫若くは市町の雇醫の手にて、病院に於て『洗滌せられ』暫くにして一見症候を認めざれば退院せしめらる、而して再び直ちに健康なり衛生上安全なりとの保障を與へられ、娼婦の業に復す。斯くの如く世人を欺き社會衛生を害する制度を是認し官醫をして良心に背きつゝ證明を與へしむる官憲は、實に此詐僞なる保障を與ふる責任の罪を免るべからず。醫師が眞實こ其娼婦に與ふべき證明は『危險なり保障を爲さず』との語であるべきである。蓋し多少花柳病專門の知識ある醫師を現今の檢徽法又は病院の治療法を以て花柳病毒傳染の患なしと信ずるものはないのである。常識論の危險は明白であらふ。」

□茶匙を以て大洋を乾すの愚

更に又、登錄せる婦人、即ち公娼の數は凡ての娼婦の百分の五若くは百分の二十に過ぎず。其多數は密娼である。巴里にては公娼數六千にて密娼の數は十倍よりも多しとのことである。且又衛生上最も危險なるは少年少女であるが、法律上公娼として取締る方法はないのである。伯林に於て調査せる

ところによれば、公娼は一週二回檢査を受くべきもので、即ち一年百四回のはずであるが、平均一人一年二十六回に當つてある。一年の初に鑑札を受けた婦人の三分の二は其年の終には影を失ふ、其百分の九十九は病氣の爲めである。其殘れる者も「洗滌はされたが治癒したものではない」。此外に何をか云はんや。娼婦を弄ぶ男子は何處に於ても檢査されず、而も誰か男子に病毒なしと保證し得るものぞ。フォン・デュターング博士は曰く、

「余は斷言する、公娼制度を以て花柳病を防がんとするは恰かも茶匙を以て大洋の水を乾さんとする如しと云ふも過言にあらずと。」

世界有數の花柳病專門醫家は、現行制度の病毒を防ぐに足らざることを知つておる。然かも一縷の望を改善の方法においてゐるのである。フォン・デューリング博士は其改善策として主張せらるゝものにつき一々批評を加へられた。

「第一の改善策は、賣淫婦を一切監督の下において取締るべしと云ふのであるが、是は不可能なることである、且つ少年少女の如きは法律上に於て許されざるものである。

第二の策は、娼婦を悉く一定の娼家に住ましめ個人營業を禁じ嚴重の取締をなすべしと云ふにある。然かしスペクル氏の調査によれば、獨逸の娼家に在る公娼の百分の八十三半は一年の後に於て梅毒を患ふ、尤もシャムペーン一瓶十二圓衞生的檢査一回一人につき二十圓乃至四十圓を拂ふ娼家に於ては比較的病毒を有するものは少い、此處には妙齡の女子にて初めて娼婦となれるものゝみあり、且つ嚴重なる豫防法を講じておる、然も是等の女子は暫くにして私娼の群に入るのである。

且又、大都會に於て僅々たる娼家のみ營業を許し以て病毒豫防を爲し得ると思ふが如きは殆んど滑稽である。凡て大都會に於ては、パリ、ペテログラード、ハムブルヒ等何處に於ても、公認娼家の數は人口の增加するにも拘はらず減少するなり、存在するも是に遊ぶものは減じつゝあるのである、婦人は娼家に於ける奴隷的生活を好まずして寧ろ密娼となる、男子は公然たる娼家に遊ふを恥ぢ寧ろ私に賣春婦と戯るゝを喜ぶ、かくて娼婦を悉く一定の娼家に住ましむることを得ざるなり。

聯隊などの存する所には娼家は欠くべからざるものにて、而して十分の公娼取締を爲し得ると說くものがある。事實上より論ずるに、第一、小都會の娼婦も亦他の娼婦と同じく衞生上の保證を爲すことを得ず、第二、兵士の多くは實際に於て娼婦に戯れずして雇女又は仲居などを弄ぶ。第三、兵士等の每月受くるところの金額は以て屢〻娼家に遊ぶを許さず、彼等は成るべく簡便なる方法を擇ぶ、娼家の存在は害ありて何等の效を奏するものでない。小都會に於ける娼家の存在は、特に靑年の慾情をそゝるもので其娼婦の病毒は驚くべき力を以て廣く傳播するものである。

余は耳にしたることあるが、一人の娼婦が花柳病を患ふることを發覺せらるゝに先ち、已に四十人の兵士に病毒を傳染せしめたものがある。更に何人に感染せしめたるかを數ふることが得ぬ。

第三、娼婦を隔離して一定の遊廓のうちに凡ての娼婦を悉く閉ぢ籠めて嚴に取締るべしと云ふものもある。例せば巴里に於て八萬の娼婦を一定の遊廓に住ましむることを得べきか、是は散娼制度を以て取締るよりも更に不可能のことである。要するに眞面目に考へ、且つ多少の識見あるものは、公娼制度が娼婦の衛生の保證となり又病毒傳播の豫防となることを信ずることは出來ぬ。」

博士は更に千八百八十八年に於て廢娼を斷行したるノルウエイの衛生統計が、公娼を許せる如何なる國の統計よりも良好なるを示せるを指し、事實に訴へて公娼制度の有害無効なることを論じられてある。

□學問と經驗の示す光明に勇進せよ

公娼制度の熱心なる主張者であつた花柳病專門醫學教授が純然たる衛生上の見地より廢娼主義者となつた一事は、世上の社會衛生を楯として公娼制度を辯護する人士の參考に供するに足ると思ふ。舊來の因襲の制度に囚はれずして、學問と經驗の示すところの光明に從つて勇進する人々の輩出を切望して止まぬ。

示威的大演說會

六月八日午後七時、本郷座に於て飛田問題警視廳問題を主題とし、婦人矯風會と聯合にて大演說會を開く。伊藤秀吉氏開會の辭を述べ、第一席高島米峰氏は「本末輕重の顚倒と」題し、第二席油谷治郎七氏は「風紀政策に就て」と題し、第三席大阪より運動の爲め上京せられたるグリスン氏「飛田問題」につき、第四席江原素六氏は「遊廓增設の非」と題し、第五席向軍治氏は「無學な役人」と題し、第六席山室軍平氏は「東西の大問題」に就て何れも熱烈なる大演說をなして、滿堂を感歎せしめ十時半閉會した。來會者千名、場所柄とて異つた方面の聽衆を敎育し、先づ示威的演說會として劇場使用の第一回は成功であつた。入場料四十五圓。

第五回廓清會總會

六月二十四日午後二時、神田青年會館に於て第五回總會を開く、島田會長議長席に就き、益富理事及伊藤主事の事業報告、山本理事の會計報告あつて、林歌子の大阪支部、德江亥之助氏の群馬支部、皆川晃雄氏の茂木支部の報告あり、更に宇佐美松三郎氏より京都支部、西内天行氏より宮崎支部、太田十三男氏より吳支部、林薔氏より橫濱支部の報告書到着、各地よりの祝電ありて協議會に移り。

一、飛田遊廓設置に對する善後策如何。
二、警視廳の公娼擴張に對する方策如何。
三、內務當局との會見如何。
四、廣義の廓淸運動に就て。
五、本年の帝國議會に如何なる議案を提出すべきか。
六、埼玉縣に廢娼實行の手段如何。
七、地方開拓策如何。
八、在外醜業婦に就て。
九、財政的基礎を鞏固にする手段如何。

等に就き凝議。江原素六、安部磯雄の諸氏より種々の意見出て、大體に於て幹部一任に決し役員改選に移り、先づ滿場一致を以て島田氏に會長の重任を乞ひ、役員は會長の指名に一任する事とし（別項推薦參照）晩餐會に移り、和氣藹々の裡に七時、

五週年大演說會

を開く、伊藤秀吉氏開會の辭を述べ、第一席林歌子氏「飛田問題」に就て、第二席安部磯雄氏の「修養上より觀たる男女問題」第三席德江亥之助氏の「群馬縣の衛生狀態」に就て、第四席吉田熊次博士の「敎育ある婦人の貞操觀」第五席山室軍平の「淵偉の婦人」第六席島田三郎氏の「閣下の風敎問題」に就て何れも雄辯を揮ひて多大の感動を與へ、十時半散會、來會者千名窓外に溢れて立錐の餘地なき盛況にして、入場料四十五圓八十錢、卽時入會申込者四十五名。

青年と貞潔の擁護

京都同志社大學長
廓清會京都支部長　原田助

□人體上の白蟻の害

大阪市の有志家諸君は種々なる方法と様々なる苦心を以て、飛田遊廓の新設に反對し努力せられたのであるが、當局に於て更に反省せらるゝ樣子がないのみならず反つて其の非なるを知りつゝも無理を貫かうとせらるゝ意嚮が見えぬでもないと言ふことを承るのは、誠に遺憾に堪えない次第である。故に私は今晩此所に立つて、再び此の附近に在る諸學校の學生々徒の保護者で居らせらる諸君に教育に從事する者の一人として思ふ所を述べて見たいと思ふ。

子供の時に讀んだ書經の中に「天のなせる災は避くべし、自己のなせる災は避くべからず」と言ふことがある。外から來る災害は之を避くることは出來るが、內から來るものは避くることは六ケ敷いことを言つたのである。此の社會には種々なる出來事が起るが殊に暴風地震の如き天災に至つては最も恐るべきものである。其の與ふる災害には限りがあり區域がある。又手段を盡し方法によるときは之を豫防することも出來る。外から攻め來る敵軍は恐ろしいには相違ないけれ共內に元氣の鬱勃たる者があらばあまり恐るゝに足らない。乍併最も恐ろしい者は實に內より來る害毒である。

諸君は熱帶國に白蟻の害あることをお聞きになつたであらう、私は十年以前に印度を旅行した時に初めて白蟻の害といふことを實見して驚いたのである其後幾何ならずして吾邦に於ても近來建築物の災害を蒙れるものを出す樣になつた。外に現はれずして內に核心を害せられた時に建築物は最も危險である。印度に於ては如何なる建物でも土に木の柱を立てるとこはない。而してチーリと言ふ木は木質堅くして蟻が付かないから甚だ珍重されてゐる。內に發する病氣は勿論恐ろし病氣の內でも黑死病、コレラの如く一時に多くの人の斃れる病氣は恐ろしいに相違ないが、更に恐ろしいものは肺結核であつて人體の中心を犯して來る。故に體格は強壯な樣に見へるが內から死の宣告を下される。該病の統計を見ると東京と大阪が最も多い、大阪の如きは結核患者の數は年々增加する、此には國民の健康と幸福を奪ふ者であるから極力豫防せなければならぬ。今一ツは梅毒即ち花柳病である。此れが重患になる迄は身體の外部に現はれず漸次體の中樞を犯して來る。此の病氣は近來益々增加する傾向があつて、最近陸軍徴兵檢査に於て壯丁即ち青年中の青年がどれ丈花柳病にかゝつて居るか、統計を調べて見ると、大阪市は明治四十四年には千人中三十七人であつたのが大正四年度には四十人に增加して居る、故にこれも次第に吾が青年を害しつゝあるを爭はれぬ事實である、されば青年は一方に於ては肺病、他に於ては花柳病と言ふ即ち身體に及ぼす二種の白蟻の慘害と戰はなければならないのである。

然れば將來吾が帝國を負ふべき此等青年を斯くの如き害毒より保護して健全なる柱石たらしむることは、第一に政治家教育家の爲すべきことである。此の病氣の害は單に身體を朽ち果てしむるのみならず、其の精神をも腐敗せしむる者である、現に我國に公娼と言ふ者があつて、此れが青年を腐敗墮落せしむる一大機關になつて居る。此れは建築物に於ける白蟻の害の如く外觀には見えないが恐怖すべき害毒を流しつゝある。御承知の如く本邦に於ては公娼として許されてある者

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

が五萬二千人、娼者が四萬五千人、私娼の數は不明であるが少くとも十萬人内外もあつて、一方に病毒を蔓延せしめ一方に於ては青年の精神を腐敗せしめて白蟻の害毒を流しつゝあることは斷言して憚からない。

□德を行ひ易く惡を犯し難らしめよ

所謂政治家なる者は遊廓を設置する事は、病毒豫防上最善の策にして、風紀取締上止むを得ないことであると言はれる。內務大臣は人の性慾は之を制止することは出來ないから、遊廓を設けて獸性を滿足せしめ、害の外に行はれざらむ爲に止むを得ないと言つて居られる。止むを得ないとは何事であるか。此れには色々の意味があると思ふ、即ち人の性慾は克己せんとして克己することが出來ない、節制は不可能であるから遊廓を設けて淫風の蔓延を豫防しやうと言ふ間違つた意見と、或は公娼があるときは私娼が減ると言ふ考へから起つたものであるが、實際は遊廓あるが故に市民の風紀を墮落せしめ、公娼の存する處私娼も亦增加することは、統計に依つても明かに表はれて居る事實である、又遊廓に於て檢梅を施行するから花柳病の蔓延を防止することを得ると言ふことは全く迷信である。これは先般京都醫科大學の松浦博士が學術上專門の立場から詳細に示された所である。

斯の如く檢梅は不完全であるが今一歩を讓って假に効果ありとしても娼妓に接する男子は一人丈けではないから若し娼婦に觸れるならば病毒の傳染を受くることは明かである。然らば此れを公然設置し加之制度によりて是れを保護して一つの營業の如く取扱ふが如きことは甚だしき矛盾はないか私は政治上から言つても教育上から言つても、此れ程嫌ふべき害惡は無いと思ふ。

グラッドストーン氏は「法律は國民をして出來るだけ德を行ひ易く、罪惡を犯し難くせしめなければならぬ」と言つた然るに遊廓制度は罪惡を犯し易く德を毒する者であるから、當然撤廢すべきである。然し政府が之れを公認して居る以上は商賣として營んでもよろしい、買つてもよろしい、檢黴してあるから大丈夫であると青年に思はしむるから、國家政治上の主意に矛盾し良國民を教養する理想に反する者である。

□德教は目より入る

私は政府當路者が雜誌とか新聞の記事或は繪畫の取締りに就て、嚴密周到に行はれつゝあることは誠に喜ぶべきことゝ思ふ、殊に文部省に於て開かるゝ地方長官會議に於て、青年の德育を重んずべきことを特に研究せられしは新聞紙上に於て屢々傳へられて居る、然るに斯くの如く訓諭しながら、一面に於ては人の性慾は制御の途がないからと言つて新遊廓を設置して青年の品性を墮落せしむることがあるならば、一方に道德の肝要なるを訓戒し、他方に於て惡德の蔓延を奬勵すると言ふ矛盾撞着を來すのである。

內務當局としても政治家としてもその何人たるを問はず、青年の腐敗を豫防する樣に務むるのは當然の事であると思ふ國家の偉大なることは何によりて決すべきか、其國民の知識が豐かにして體軀が頑丈であればよろしいと言ふのではない知識も體格も大切であるが、青年が德を守り人格を重んずることがなければ永遠に興隆することは出來ない。然らば青年の貞潔を保護し此れを守つて誘惑に近づかしめざることは、吾人教育者も諸君父兄たる方々も種々なる方面から考へなければならぬ。

保護者たる方は先づ自ら彼等の模範となると、又社會の上流に立つ人々が率先して貞潔の範を示さなければならない。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

故[illegible]禪先生が、「説教は耳から入らずして目より入る、」と申された、百度び學校に於て先生から良いことを聽いても、家庭に於て一度目より入る良からざることは青年にとつては大なる影響がある、家庭に於て、小供は父兄長者が爲すことを見て、此れを眞似るのであるから大に注意すべきことである。又社會の上流にある人々が今日の如く青年に對する責任を感じないことでは、到底眞き青年を教養することは出來ない。學生の墮落を高唱し青年は腐敗せりと呼びますが、焉んぞ知らん其の御手本は斯く言ふ方々にある、徒らに自己の節義を顧みずに青年を嘲罵する人々はよろしく自己に罪なきやを顧みなければならない。政治の當路にある人は青年が惡いならば先づ大いに其の原因を考慮し、自ら悔い改めなければならない。

□寧ろ健全なる遊戯機關を作れ

第二に必要なることは體育を奬勵することで、これは大いに考ふべきことである。

青年會のグリーソン君が朝日新聞紙上に於てアメリカのポートランドモンツリーと言ふ雜誌を引いて飛田遊廓の反對意見を出された、それを讀むと「國家興亡の根源は其の宗教や學術眞理の研究によつて計り知るべからず、其國民が閑散なる時間を如何に費しつゝあるかを見るにあり」と。此は眞に味ふべき言葉であると思ふ。凡そ國民が不健全なる遊戯をなせるときは知識に於ては不完全なる發達をなし道徳の墮落を來すものである。其の昔グリーキ、スパルタに於ける國家興隆の歷史の根本には健全なる體育の奬勵があつた。一國に於て國民が良く宗教を知り科學を研究することは大切なことであるが、國民が閑散なる時を如何に利用せるかゞ問題である若し青年が良く健全なる遊戯を好むならば必ずや其の國家は隆運に向ひつゝあるであらう。之れに反して遊惰に耽つて不健全なる遊戯をして居るならば、其の國家の將來は眞に悲觀すべき者である。

此れは歷史が明かに示して居る、而して我國に於ては青年の爲めに彼等を樂しましめ、彼等の體軀を練達すべき機關は何處に備へられてあるか。歐米に於ては人家一千戸以上の都市には必ずフットボール、ベースボール其他種々樣々の遊戯を爲すべき設備が設けられてある、當市に於ても中之島の劒先に運動場が出來、程遠からぬ豐中グラウンドの如き處に青年が集つて健全なる遊戯をなすが如きは、國家にとつて誠に喜ぶべきことである。我國の多くの町には此の設備がない、京都にも未だ其の備へがありませぬが遠からず設けらるゝと言ふことである。

斯くの如く健全なる遊戯の設備は整へられずして、閑散の時を遊惰に費すべき遊廓、酒を飲み、淫猥なる遊びを爲す處は至る處に設けられてある。故に青年は閑散なる時を惡用することは出來るが身心の健全なる鍛錬を爲すことは出來ない此れ誠に遺憾に耐えないことではあるまいか、何故に大阪府が飛田遊廓を認可する前、寧ろ青年の爲めにプレーグラウンドを設けることを考へなかつたであらうか。

□正義の士の奮起を促す

佛國のフイエー氏が歐米各國民の心理性と言ふ書物を書いた、其の最後に將來世界的の國民として優秀の地位を占める者はアングロサクソンでもラテン民族でもグリーキ民族で

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

も果た又スラブ民族でもない。凡そ其の國民が聰明勤勉にして良く道德を守る者、即ち其の者であると言つた。（斯くの如き堅實なる青年を敎育せむとは保護者諸君が切に冀望せらるゝ處である、若し青年をして斯くあらしめんと欲せば彼等の貞潔を保護せなければならぬ。故に今回の飛田遊廓問題は單に大阪府の問題にあらずして日本國民の上に降りかゝつた大問題である。私共は是を論ずるに何等政治上に於ける黨派の異同を問はない、勿論私は何等政治上に關係はない。而して切に諸君にお訴へしたいことは、此の問題は必ずしも宗教家道德家乃至は敎育家のみに與へられた者ではない。勿論キリスト教徒のみの解決すべき問題でもない。苟くも正義を主張する者は其の佛教たると神道たると問はず、少くとも國家の將來を考慮し子孫を愛する至誠があるならば振つて此の問題の良き解決に努力せられなければならない。

然るに教育に從事せらるゝ方も宗教に熱心なる士も何故にか此の大切なる問題に就ては其の態度を明かにせられない實に遺憾に耐へない次第である。此の問題は政黨、乃至は宗教の如何を問はずして熱心に反對せられたい。私は大阪の輿論が非常に沸騰しつゝあることを喜ぶ者である、殊に先達て數千枚の葉書を出して飛田問題に對する市民諸君の意見を聞いたのに其の返事の來るものは全部設置反對に賛成する者のみであつた、殊に飛田附近に在る保護者諸君は子弟の爲めに設置を中止せられむことを冀望せらるゝは當然である。此の問題の反響は遠く東京橫濱にも響いて輿論となつて居る、京都に於きましても反對運動の起らんとして居る。故に此れは單に大阪市の問題にあらずして國家の問題である。されば此の問題の解決は單に一地方のみに任すべき者でなく、天下の輿論とすべきものである、廣く會議を興し萬機公論に決すべしとある樣に、政治家が輿論を重んずべきことは最も大切なることである。

□大久保府知事の反省を促す

當大阪府知事大久保利武君は私人としては同窓の友であり尊敬して居る人であるから、其の致さるゝことに輿論を起して反對するが如きは、實に忍びないことであるが、併し氏が其の非を知りつゝも此れを成し果たさむとせらるゝことに至つては寧ろ友情として反省を促したいと思ふ、私は大久保君の爲めを思ふから大いに反對するのである。新聞紙の傳ふる處によれば遠からず知事を辭せらるゝと言ふことであるが跡は野となれ山となれ。と言ふ覺悟で居らるゝといふことが事實とすれば、近來の良二千石として稱贊せられ。明治の英傑大久保利通公の令息として榮譽ある家門に人となりながら大久保氏は飛田遊廓問題の爲めに知事を辭職せられたと言へば、如何だらうか、白砂清爽たる濱寺海岸の樹間に故大久保利通公の銅像がある。公が明治の初年に同海岸を伐り拂はんとする計畫ありし時に同地は將來の大阪市民の爲めに切り拂ふ可からずとして之れを保存せられた。其の濱寺海岸は今日百七十萬の市民が淸遊を恣にすることの出來る大公園にして、好海水浴地ではないか、斯く大阪市民の爲めに濱寺公園を遺されし公の子たる現大久保知事は、市の爲めに青年を腐敗せしめ墮落せしむる一大遊廓を紀念として遺さんとせらるゝではないか、私は友人として斯く爲さしむるに忍びない諺に過ちを過ちとして改めず此れを眞の過ちと言ふ、若し過ちを改むるならば君子である、改めないから本當の過ちとなるのである。故に反對の意見を聽いて、之れを改めることは君子たる者の爲すべきことである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女子教育者の罪

貴族院議員
廓清會評議員 江原素六

矯風といふ言葉があるが、風といふ事はキリスト教も儒教も同一である。支那で最も尊ばれてゐる詩經といふ書物に、此事が力を注いで書いてある。『君子の徳は風也、風草に加ふれば必ず偃す』といふて、君子は上流を指し草は下流を示し上流は下流を化す事を説いてある、風教の事は風のやうに、香もなく影もなく手に取る事も出來ないが、風が吹けば即ち草が靡く、然るに日本は上流が駄目であるから困る。

婦人は遅れてゐる、婦人は一般に男子よりも劣つてゐると云ふ事を私はよく聞き込む、また私の見る處でも一二の勝れた婦人はあつても、大部分の婦人にはその言葉の至當なのを認めぬ譯には行かぬ。けれどこれは誰れの罪かと云へば、單に婦人ばかりの罪ではない男子も惡い、婦人を尊ばうと云ふ念が缺けてゐる。婦人が墮落する、それは惡い事である、けれど墮落するやうに誘惑するのは男子である。男は誘惑する事は道徳上では惡い事だと知つてゐる、けれど實際の場合にはそんな反省もなく婦人を誘惑する。同時にまた女子教育者にもまだ自覺ある眞に立派な婦人を造らうと云ふ見識と考慮の缺けてゐる人が多い事を歎ぜざるを得ない。

一般の婦人が虚榮に走り、女としての自尊心が薄く、配偶者を選擇するとしても資産家や學士へでも嫁げば樂が出來ると云ふ位の考へしか持たず、眞實の結婚生活の意味を知り得ない事や、また女性即ち婦人その物に對する考へのないと云ふ事は一半はまた女子教育者の罪であると云つてもよい。

自分と同性である多くの女が、動物のやうに賤しい恥づべき境遇に置かれてゐる吉原を自分の夫と共に面白さうに見物に行く婦人はあるが、遊廓問題が起つた時に男子が政治問題としてそれを取扱ふ以外に、自分と同性である多數の賤業婦が斯かる不幸な奴隷となつてゐる事に就て考へ、婦人一般の地位を高めようとする婦人が果して幾人あるか、と考へると實に慨嘆の至りである。秋田の女子師範の卒業生で女郎屋へ嫁いだ者があるかと思へば、高等商業の卒業生で女郎屋へ養子に行つた者がある。此等は其家の營業がどんなものであるか即ち恥づべき奴隷商賈であると云ふ事を批評が出來ない、これは單に以上の二人だけでなく一般の女學生の頭でゝも人間を奴隷的に扱ふ事の如何に罪惡なるか、またどうすれば一般の婦人の地位を高める事が出來るかと云ふ事を解釋する事が出來ぬ。

これは誰の罪かと云へば幾分は婦人その者にもあるが、確かに教育者の罪である。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

國家醫學會に於ける花柳病に關する講演

去月廿四日午後一時から東京帝國大學法醫學講堂に於て國家醫學會の例會講演が開かれた。演題は總て花柳病に關する事のみで、殊に會長片山國嘉博士は「余の賤業婦救濟意見」と題して大意見を發表すると云ふので、定時刻に參會した。講演者は片山博士を除いては何れも醫學士であるが大學に於て夫々專門の治療や研究に從事して居らるゝ方々で、其が其專門的見地より花柳病を觀た所を披攊するのであるから其所見こそ天下のオーソリチーである。然し專門的治療に關する事や學術學理に關する事などは廓清會の立場から餘りに必要はないと考へて其中の吾々素人に有益なる所だけを手帳に留めたのである。問題が問題故露骨に渉る點あるを免れぬが學術研究として恕して頂きたい。

X線科より觀たる花柳病

醫學士　片山國幸氏

氏は始めに一千八百九十五年に獨逸のレンドゲン博士が陰極線の研究中新たに發見した光線をレンドゲン線と名付けた。是がX光線である。其が段々醫術に應用せられて多くの効果を收めつゝあるなど、X線の歷史を述べられ、愈々花柳病の本題に入り

「花柳病と云つても先黴毒と淋病の事をお話しする。黴毒と淋病とは何れも畏るべき病患で、一たび之に罹る時は之が全治は容易でない。黴毒が心臟、肺臟、又は大動脈附近を侵す時は是迄は其診斷は容易でなかつたが、X線で之を視る時は之を鑑別する事が出來る。殊に黴毒に由つて起りたる大動脈瘤大動脈中膜炎、大動脈硬變などは何れも畏るべき疾患であるがX光線に由つて寫眞に撮れば之を判斷することが出來る」

と述べ、黴毒が人身の最要な機關まで襲ふ事を言はれた。

「黴毒が骨を侵した場合、脛骨、大腿骨、鎖骨などを侵す時は、最初は其骨膜を侵し、其部が腫れて來る。そして段々層をなして居る樣になるが、之が進むと其層が固くなつて恰も骨が太くなつた樣に見える、そして其層下の骨は少し疎鬆になつて居る。是等はX線を用ふれば明かに診察する事が出來る。又黴毒が膝關節を侵した場合には最初關節面が破れ、其處より遊離したる黒點を見認める樣になる」

そして先天的黴毒と後天的黴毒とに關して說明し

「先天的黴毒は主に前膊骨、下腿骨に來る。丁度大腿骨の骨膜の樣に鞘が出來る。軟骨鎖骨はX線で寫すと非常に濃い影を作つて居るのが見える」

と云はれた。次に淋毒性の骨膜炎に關して種々說明せられ、X線で見分ける事は頗る困難である事、其をX線で治療することに就ても歐洲又は日本でも之に關する報告が少い事を述べX線を淋疾に用ひたる効果は、氏の實驗によれば對症療法としては好結果は得られぬ。若外の療法或は化學的療法と共に用ひたならば効果があると結ばれた。

眼科より觀たる花柳病

醫學士　中村辰之助氏

始めに「鹿爪らしい學理的專門的の話しは拔きにして、成るべく通俗的に話す」この前置きで、直ちに

「眼の淋病は俗間では風眼である。按摩にお前はどうして眼が潰れたかと訊くと十人中七八人までは風眼でと答へるる程失明の原因をなして居るものは風眼である。風眼は學名は膿漏性結膜炎と云ふが、今日では淋毒性結膜炎と云ふて居る。どうして眼が淋病に罹るかと云ふと、主として膿が直接間接に

眼に飛込むのである。淋病の黴菌がどうして眼に這入るか、其經路をお話しすれば、第一は成人の風眼第二小供の風眼と二つに分ければならぬ。成人の方は賣淫婦を弄んだりなにかする所より淋疾に感染し、其淋毒が眼に己の指頭などより傳へるので、是は自業自得である。尤も外から飛込む事も勿論ある。其は醫者が他の眼の淋病を治療して居た時其指頭をよく消毒せずして他の眼を診察する時など醫者の指頭から感染する事がある。又患者が錢湯に這入り、湯の中に淋病の膿を流して置く、其膿を他の人が眼に受けるなども傳染の一つであると云ふ人もあるが、是は極めて稀な事である。膿か湯の中に出ても、其膿は湯の爲に薄くなつて傳染力が稀薄になるからである。然し兎に角今淋病患者が入つたばかりの風呂に直に這入るのは危險である。其から小供の場合は、之を初生の時、少し大きくなつた時と區別する。初生の場合は申す迄もなく、生れる時の道、又は生れて間もなく感染する。是は直ちに眼に來るが、少し大きくなつた場合には多く始め尿道に來る。そして其處から成人と同じに眼に來るのである。故に陰部の方を注意する事が必要である。と説いた。兎に角大人でも幼兒でも風眼は其源を自身又は親が賣淫婦などより病毒に感染したから起ることが明かに分る。次に風眼の畏るべき事を述べて

「風眼は實に畏るべき病である。尿道淋疾の如く急性結膜炎を起し、一日二日位にして非常に痛みを感じ三日目位になると血の交つた膿が出る。或は角膜全體が一夜の内に破れて終ふ。そこで球眼が全く無くなる。風眼は絶對に癒らぬかと云ふに、大人と子供とは違ふ。大人は危險であるが初生兒の方は危險が少い。初生兒の風眼を昔しの醫者が失明させたのは可愛想である。初生兒の風眼を失明させるのは醫師の罪惡である。」

次に其豫防法に就いて、大人でも子供でも傳染の恐れがある所に近かぬがよいそして一眼が風眼に罹つたなら、他の健康眼に其が傳染せぬ樣にする事が必要である事を説き、尚初生兒の風眼豫防に就ては、生れた時產婆が注意して二プロセントの硝酸銀水で眼を拭ひ、其跡を食鹽水で洗ふ事が必要である事などを述した。其より眼の黴毒に就て

「眼の黴毒は先天にも後天にも來る。後天の場合に眼の方は陰部の黴毒と同じ樣に第一期第二期と云ふ樣に來る。然し黴毒が眼底に來ることは少い。そして全身黴毒の第二期第三期に於て來るのが多い。眼の黴毒は眼のあらゆる組織を侵し、眼の總ての病の原となる。變性黴毒となると神經の麻痺を起して其が爲に死亡する者もある。又黴毒の爲に失明する人もある。單に黴毒に由ると云ふよりも、黴毒が眼疾の根源となり、其が爲に失明する人は非常に多い事であると思ふ。小兒は遺傳黴毒に罹る。甚しい者になると母の胎内に居る時から眼に害を受けて居る。そして是は多くの場合に於て回復は出來ない事になつて居る。又遺傳黴毒の爲に少し大きくなつてから角膜實質炎を侵す事があつて、大抵は失明狀態となる。概して云へば黴毒淋病ともに失明の原因となる。若も黴毒と淋病とが無くなつたならば日本の盲目者は其數が大に減ずるのであらうと思ふ」

其より幼兒に傳染する經路に就て委しき説明があつて、黴毒淋病ともに畏るべきことを極言せられた。

小兒科より觀たる花柳病

醫學士　涌島雅藏氏

小兒の黴毒は先天梅毒は生れてから一週間か二週間位て鼻が詰まる、乳が飲めなくなるのが始まりで、其から總ての機關を侵す樣になる經路を述べ、さうでなくとも兩親が黴毒に罹つて居るが爲に身體に變化を及ぼし、其變化が子供に及ぼして生れながら薄弱となる。初生兒は黴毒に罹ると其身體の抵抗力が弱くなるので他の傳染病にもかゝり易く、且つ死亡する點を述べ、

「後天の黴毒になると傳染の經路が少し變つて來る。賣淫婦から傳染することはないが、乳母が黴毒に罹つて居る時其から感染する事がある。黴毒に罹つて居る人が給仕をすると、給仕の手や食器に觸れ、其を幼兒の口に觸れ其より傳染する事もある。或は頭、瘡が出て居る。其が黴毒性の物であつた。然るに其子と遊んだ爲に其から傳染する又醫師が自分が黴毒に感染して居る事を知らずして、醫師の手から幼兒に感染せしむる事もある。之を防ぐには第一兩親が黴毒に罹らぬ樣にする事、若罹つたなら完全に治療する事が

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

必要である。其は兒童の黴毒は公生兒よりも私生兒に多いが、私生兒を生む位の女は道樂者が多く、或は全然賣淫婦などであるから、兩親が黴毒に罹らぬ樣にする事は之を防ぐ第一である。若も母が黴毒に罹つて居た時は乳母を雇はればならぬが其時は乳母を撰擇するに最も注意する事等である」と賣淫婦か小兒の黴毒の原因を爲して居る事を說かれた。

口腔外科より觀たる花柳病

醫學士　福島尚純氏

口腔外科より花柳病を觀る時は、或は社會問題にも關係せればならぬと說き起し

『口の中の花柳病と言はゞ第一が黴毒で、軟性下疳又は淋毒性の疾患は稀である。口腔内の粘膜は尿道の細胞によく似て居る。然し口腔粘膜は極めて抵抗力が强い故に淋毒などが侵すことは少いのである。黴毒を受けると橫痃が出ると同じに黴毒を口腔に受けると顎下に橫痃と同じ樣にグリ〳〵が出る。然し是は他の腫物に由つて淋巴腺が腫れる事があるから、單に此橫痃では見分ける事は出來ぬ。そしてどうして小供の口腔内に黴毒が來るか。是は隨分産婆などよりも來る、大人にあつては患者自身が持つて居る病毒を口腔内に入れるのがある。故に口腔内の黴毒は女子よりも男子に多い。』

其から口腔内の黴毒は始め多く下唇に來る。或は扁桃腺からも來る。其傳染の經路は接吻である。黴毒を有する口腔の粘膜と他の口腔の粘膜とか接觸するから、病毒を移すのである。露西亞の或所ではキッスを禁じて居るのは之が爲であると說き、進んで、

『細菌に觸れて居る食器などを口腔内に接する時も傳染する。かの酒を飲む人が他人の杯を碌に洗はずして受けて飲むなども黴毒傳染の恐れがある。もう一つは烟管で、病毒を持つて居る人が吸つた烟管で、所謂吸付煙草を吸ふと、其からも傳染する。それから我々醫師の職業にある人も職業的に傳染せしめる事がある。家根屋木羽を葺くを見ると口の中に釘を咬へ、其を一本々々づゝ指で取り出して木羽に打付ける。そして一寸休む間には釘の置場なる口の中から殘らず出して箱の中に入れる。程經て他人が其釘を口の中に入れて葺く。こんな時にも傳染する。西洋では硝子製造者がパイプで硝子の熔液を吹く。甲が吹いて乙に渡し、乙が甲の咬へたパイプを咬へて吹く。又其を丙が吹くと云ふ樣にするので此時も黴毒を他へ傳染せしめる事がある。小兒の方では母が乳首を含ませる。其時母が自から甞めて含ませる。或は食物を嚙んで子供に喰べさせる。こんな時に母が黴毒に罹つて居れば、其を子供に傳染せしめる。或は齒醫者が器械の消毒をよくせなかつた爲に傳染せしめる事もある。理髮屋が顏に傷をつけ三週間も經つて梅毒になつたなどもある。』

傳染の經路を說く事極めて精細を極めて居るが、要するに之を防ぐには他人の用ひた物を消毒せずに用ひてはならぬと云事になる。そして多くの場合には口腔澤黴毒は烟草を吸ひ酒を飲む人には一年二年でも癒らず、十年間も慢性になつて治療に効が少い事があるとて、酒烟草の害を說かれた。

『第三期の黴毒が口腔に來るのは始めて黴毒を受けて後二年三年或は十年又は其よりも多くを經過して後に舊惡が露顯すると云ふ風に表はれて來るのである。口唇に潰瘍の樣に表はれるのもあり、又は間出性の炎性が起り、其が慢性的になつて後には斑痕が出來、段々鼻が缺ける、寧が鼻から出ると云ふ樣になる。或は顎骨の骨膜を侵す事もある。口膜と鼻膜との間を侵す時は救ふ可からざる缺陷を生ずる。舌に來るのになると恰も堅い皮を以て敝はれた樣になつて其表面に變化を生じ形が異り、且つ堅くなつて舌の運動が苦しくなる。それから屢々黴毒が癌腫を誘致する。第二期に於ても顴骨の邊で痛みを覺える。腫物かと疑ふが其は大抵黴毒である。或は咀嚼筋が侵され、其結果口を開く事が出來なくなる。此外耳下腺とか唾液腺とかを侵す事もある。後天的の者は自己の放蕩又は不注意より起るので仕方がないが、先天的の者になると、親の因果が子に報ふと云ふ樣な事で如何にも視たる者の罪惡である。子供の齒が弱く、或は波狀齒或は過剰齒、など皆先天的黴毒の爲である。子の鼻涕が出る、涎が出るなども多くは先天的黴毒である。大人の齒が痛みなく脫落する事がある。是は急速に來るもので黴毒の結果である。』とて水銀劑の危險を述べられた。

公娼制度か私娼制度か

醫學博士　片山國嘉

□余は廓清會以上の廢娼論者である

花柳病の恐るべき事は各專問家の話しから充分に分つた事と思ふ。若し尚多くの方面から觀察したならば其以上に恐ろしい者であると云ふ事をお知りになるであらう。斯かる恐ろしい病が社會一般に擴がつて居ると云ふ事は國家衛生、民族衛生、又は人種を改良して優良な人種にしようと云ふ人種改良上から此の害を防ぐ事、即ち花柳病の如き傳染病を防ぐ事は勿論必要で、決して慢性病に對する處置にても今日では急性以上に努めねばならぬ事である。私は今日『賤業婦救濟問題』に就てお話しゝようとするのであるが、かの恐るべき花柳病の多くは所謂賤業婦に由つて得らるゝ、此點に於て賤業婦は著しい害を社會に及ぼして居る。故に賤業婦問題は之を社會的に研究せねばならぬ。今は之を豫防することは拔きにして賤業婦の害を社會政策上より輕減し、其損害を救濟する事が出來るか否かを研究して見たいと思ふ。賤業婦問題は花柳病的の社會的疾病からのみならず、經濟上から觀ても大きい社會問題である。此外に論じなければならぬ事は人間の性慾問題、及び公娼私娼の問題もある。廓清會などでは最も公娼廢止問題を主張せられて居る。私も若も賤業婦を廢止する事が出來るなら全然廢止したい。廓清會以上に廢止論者である。然しさう簡單に廢することが出來ないとすれば、大に研究せねばならぬ。

□廢止以外の方法で解決したい

私は法醫學上から見て之に對し大に意見があるが、今迄は酒の害のみを論じて居つて賤業婦の方は後にして置いた。然し酒と女との害は何れも大きいから、此二つを豫防することは社會政策で、法醫學の問題も亦直接間接に此二つより起るのであつて、云はゞ酒と女から起る傷害豫防と同じである是迄賤業婦の問題に就て餘り多くを論じた事はなく、元より確定した議論ではないから發表はせぬが、先日動物愛護會の席上や其他一二ケ所で一寸言つた事がある。元より大に研究した物でないから新聞などに出しては困ると云ふて置いたが二三の新聞は之をスッパ拔いた者もある。私の考へでは人賤業婦を絶對に廢止することは不可能の事であると思ふ。間の性慾問題に就ては、人類が集つて居る所では遺憾乍ら仕方がないと思ふ。若も人間が總て聖人君子なら元より何の困難もなく解決が出來るが、然らざる以上は絶對廢娼は不可能であると思ふ。然し私が斯く云へばとて存娼論者ではない

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

出來るなら勿論絶對に廢止したいが、出來ぬとすれば、之を如何にして其害を輕減するかを講究したい。或は如何に之を處置して往くかを研究して見たいのである。其方法の如何によりては或程度までは人力の及ぶ限り我等の力の及ぶ限りを盡して害を少くするは不可能ではない。併し是迄も隨分大きな問題であるから之には種々なる政策を立てた人もあつたが、多くは理論上はベストであつても、實際に具體的に行はれる樣な者が少い。公娼廢止は理論としては眞に結構であるが若も之を廢止して其儘にして置いたならば、淺草千束町の樣な所が多く出來て公娼以上の害がある。勿論公娼は公娼の害があり、私娼には私娼の害があるから、其弊害を數へて害の少い方を取らねばならぬ。私の議論は公娼にもあらず私娼にもあらざる方法に由つて解決しようとするのである。

□救濟を目的としたる團體の設立

私娼の成立は醜業である。世の人は之を婦人のみの醜業であるかの樣に言つて居るが、之も一種の賣買であるから、賣る人が醜業であるなら買ふ人も醜業で、決して婦人のみが醜業ではない。要するに之は社會の闇黑面の現象であるから、婦人のみを賤めて男子が威張つて居るのは間違つた事で、醜業婦は社會其自身の思ふ所を表した者である。故に賤業婦問題は決して婦人のみに關係する問題でなくして、其全體を社會自身が負はねばならぬ。由つて之を救濟するにも婦人許りを責むるのは非道である。婦人は男子の爲に名に於ても賤業婦と云はれ實に於ては男子の犧牲となると思へば實に憐むべき者である。故に之を救濟するには社會全體が一致して掛らねばならぬ。そこで彼等賤業婦が賤業を營むに至るには種々の事情がある。或は父母の爲、或は夫の爲或は情夫の爲此の情夫は可笑いが、兎に角其等の事情上已むなく賤業婦になるとすれば、彼等をして賤業を營ましむるには其得たる全利益をば彼等の全利得として其事情を救濟するとなさしむべきである。然るに第三者が之を利用して大なる利益を取り彼等賤業婦をして利益を得せしめざる樣にするのは大なる非道である。其は公娼のみを論ずるのではない。千束町邊りでは私娼を買ひて其で利益を得て居る者があるのは間違つた事で、賤業を營ましむる者はどこ迄も彼等を救濟するの目的でなければならぬ。それで之を考へ詰れば之を救濟するのは即ち社會が自分自身で清くする方法である。佛教にも阿彌陀如來の御惠みは善人よりも惡人を惠み給ふとある。醜業婦に就ても亦然りで、純潔なる婦人を救ふよりも、賤業婦を救ふのは最も貴い事業である。

□娼婦の自身營業にする

賤業婦なる者の爲に社會は非常なる害を蒙る。彼等の爲に一年中社會には幾ら破産する人があるか分らぬ。或は前に言つた惡い病に罹り、所謂傷害を受ける者が澤山ある。是は第三者が所謂彼等を惡用して、之を營業的にするからである。若も之を營業的にせず、阿彌陀如來の願の如くに、彼等を救濟する目的を以て此事業をするならば、其程の害はなくなり本人も其事情を救濟することが容易に出來る樣になる。そこ

で私は日本の社會に一つの團體を作り、充分慈善の意味を以て彼等の賤業を爲さしむる事にしたいと思ふ。慈善事業と云つても普通の慈善とは違ふ。其とは少しく趣を異にする營利的よりも社會政策的の事業である。そして單に社會許りでなく政府も之に力を盡すのが當然であると思ふ。此問題は政府の事業として警察官も公にやる。政府は其方針を確定し學者も政治家も集り、内閣が何偏變るも決して動かぬ様にする。然し内閣自身でばかりすると少しく面白くないから、團體を組織して半官半民の組織とする。恰も滿洲鐵道會社を半官半民とした様にする。此團體の下に賤業婦は營業をするのであるが、團體は元より彼等より利益を得ようとするのではない。賤業婦とならんとする者があつたなら團體は成るべくさうならぬ様にする。已に成つて居る人には可成早く之を廢める事が出來るやうにする。此團體には婦人を食物にしようとする人は一人もない。前にも言つた様に絶對廢娼は不可能であるから、之を存して置いても之を救濟する方法を取るのである。此處に一人賤業婦たらんとする人があるとする。團體は警察と協力して之を調べ、此人は到底も賤業以外には世に立つべき方法がないと認めた時に限り之をやらせる。其は婦人其者がするのであるが、元より無教育の者であるから賤業をするにしても、團體は好意を以て無駄をさせぬ様に世話をする。そして一日も早く廢業する事が出來る様に出來易い様にする。

□家屋など普通の家にする

賤業を營む場所はどこでする。東京ばかりではないから一般に考へねばならぬ。私は此團體に對して政府は土地收容を許して貰ひたい。名は何と付けるか。假に收容所として置くか、或は遊廓と言つてもよいが、看板なぞは無論出さぬ。吉原などの遊廓を西洋人が見て、衛生上は善からうが、餘りに大袈裟であると云つて居る。あれでは餘り公けすぎる。あんなに公けすぎぬ方がよい。然し長屋ではいけない。成るたけ人の目に觸れない所に收容所を置く。そして其周圍の家と同じ様にして目立たぬ様にして、之を探らなければ何だか分らぬ様な風にする。又隣りの人々に對しては禮儀など嚴格にして居て、研究せねば分らぬ様にするのである。充分考へた上徐々にやつて此問題は急にやる事は出來ない。要するに社會政策上より論ずれば救濟上よりする外はない。西洋などでも此處迄進んだ者はないらしい。私は別にこんな問題に就てどうすると云ふ譯ではないが、此問題は新問題であるから公表を見合せて置いたのであれけれども、已に二三の新聞雑誌にも出て、其れが私の精神を誤解して傳へて居るから此處で言ふのであるが、私は單に彼等を救濟する一方法としてかうしたら善からうと思ふて言ふのである誤解せぬ様にして貰ひたい。

記者曰、公娼廢止は空論ではない、世界の事實である、群馬縣の事實である、博士が之を輕視されるのは遺憾である、併し究竟賣淫を秘密裡に置かんとせらるゝの趣旨は一致する。唯我等は半官半民で補助するよりも、全然抱主樓主救濟的にもせよ)等に類した者を認めたくない。それは娼婦自身の墮落、自身の營業でなくてはならぬ。又半官半民の集娼制度によつて、散娼密娼を防ぐといふ事も信じ得ない。而して官民協力其反省を促し、救濟に努むべきは勿論である。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

驅り出されたる私娼の行衛

澤田順次郎

◎私娼の行衛は何うなる

今回の私娼取締の結果、彼等は勢ひ廢業しなくてはならぬことは言ふ迄もないが、さて其の行衛は何うなるであらうか此れは當局者が私娼を撲滅する方針を立つる上に於いて、十分研究した事と考へらるゝが、併しそれに就て未だ當局者の意見を聞くことを得ないのは、殘念である、これは抑々私娼撲滅政策の根本となるものである故、吾人は玆に少しく述べて見やうと思ふのである。

◎弊害の分水嶺

當局者の考へでは、私娼撲滅の結果が未來に屬することで豫言が出來ぬといふかも知れぬが、併し總ての事は、或る目的を立てゝ之を決行するには、豫め其の後に來るべき所の結果を考へた上でなければ、漫然と手を下す事は出來ぬものである。今度の私娼撲滅の如きは、特に社會の大問題であつて、一歩を誤れば却て弊害を增すといふ樣な分水嶺に跨つて居るので、輕々しく決行することは出來ぬのである。それを斷行するに就ては、必らず成算があつて、大抵恁ふなるであらう、若し理想通りに行かなければ、恁ふしやうといふ究竟までの方針が定つてあるものと、自分は思つて居る。

◎驅り出された私娼

此の事に就て、自分は近頃萬朝記者から、質問を受けたことがある。それは驅り出されたる私娼は、何うなるであらうか。彼等が其の醜業を行ふことが出來なくなるとすれば、差し詰め生活の必要上、何かに變じなければならぬ。それは如何なるものであらうか。犯罪者などに多くなりはせぬかといふ意味で、至極大切な問題であつたから、斷片的に答へて置いたが、之れを纒めて言つたならば次ぎの如くなるであらう

◎行衛の種別

一　親元に歸る者。
二　情夫の許に行く者。
三　慈善團又は救養所等に收容さるゝ者。
四　商業を營む者。
五　産婆、看護婦等になる者。
六　女髪結となる者。
七　女中或は下婢となる者。
八　女工となる者。
九　手内職に從事する者。
十　海外に去る者。
十一　浮浪する者
十二　勞働に從事する者。
十三　バーの給仕となる者。
十四　散娼（個人的に賣淫するものにて辻君の類）となる者。
十五　公娼となる者。
十六　藝妓となる者。
十七　音樂の師匠となる者。
十八　人の妻となる者。
十九　人の妾となる者。
二十　女優となる者。

◎其の多數を占むるもの

別に順序を立てゝ言つたのではないが、大體は右の如きものであらう。其の中で最も多數を占むるものは何であらふか未だ確定することは出來ぬが、吾人の考へでは十（海外に去る者）、十四（散娼となる者）、十五（公娼となる者）の三種は、最多數を占むることゝ思ふ、都會にあつてはバー、料理店、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

旅店等の給仕、女中に住み込む者も多くあるであらうが、小都市であつて、バーや料理店などの少ない所では、忽ち滿員を告げて、多數を要することは出來ぬであらう。併し兎も角も此れ等は、私娼の望んで居る所なることは明らかである。

◎理想と實際

そこで當局者の理想であるが、之は言ふまでもなく、私娼を諭して、なるべく正業に就かしむる方針であるが、これが果して旨く行くであらうか。私娼を絶滅する目的としては、此の名案は最も理想に適つたものであるが、併しながら世の中の事は、理想通りに行くものでない。如何に彼れ等を說き諭して、正業に就かしめやうとした所で、數年來墮落し來つた彼等が、此際急に其の行ひを改めて、正業に就くことが出來るであらうか。假りに彼等に其の志があるとしても、職業難を叫んで居る現社會で、彼等を容るゝ職業が多くあるであらうか。普通の婦人ですら、職業を求めんとして奔走しても、容易に得られぬ場合に、私娼がそれに代つて職に就くといふことは、難中の難事ではあるまいか。

◎正業に就くは難い

勿論正業といつても、種類が多くあつて、正しき道を踏んで行ふ所の職業は、何でも正業には違ひないが、前に記した所の職業は、勿論、產婆、看護婦、女髪結より、女中、女工等に至るまで、立派な職業として、奬勵すべきものであるが、併しながら當業を營まんとすれば、相當の資力がなければならぬ。產婆になるには免許を得なければならぬ。看護婦も同樣で、女髪結になるにも、一朝一夕に出來るものでない。

◎丁抹の例

其の中で比較的容易なものは、女中、女工の類であるが、併し今まで身を淫逸に持ち崩して來た者が、俄かに女中や女工になられるであらうか。よし成つたにしても辛捧が出來るであらうか。又一方では私娼上りの女中や、女工を雇ふであらうか。箇樣に考へて見ると、娼婦を正業に就かしむるといふことは、至極結構な結構で、是非然うしたいものであるが恐らくはそれは空論になりはしまいか。却つて丁抹で公娼を全廢した時に、彼れ等の大多數は、英、米、佛等の諸外國に去らんとし、正業に就かんとするものは、殆んど全部貧民院の保護を受けんと希望した例もある。

◎喜びは束の間

箇樣な種々の事情や、實例等に依つて考へて見ると、私娼の行くべき所は極めて狹く、差し當つて如上の三種に歸するであらう。さうして見たならば、折角私娼を絶滅して面白いと喜ぶは束の間にて、その變形は直ぐに他方面に現はれやう。

◎結論

斯くの如きは、賣淫の取締りに對する根本義を誤つて居るからである。其の根本義は何であるか。生活問題と、性慾問題とを解決することである。女には操といふ武器がある。此の武器を利用する時は、生活難は免れる。それで娼婦は素人になつても、最後は操を賣つて、生活の資とするのである。又生活問題を解決しなければならんといふのは、玆にある。此性慾問題は、男は女を離れて生活が困難なることである。此の二問題を解決しなければ、娼婦は永久に滅ぶものでない。

教育都市として名高き「岡山市」の爲に

岡山縣金川中學校長　服部純雄

◎公娼は絶對的に廢止すべきものであります。

◎私娼は根本的に一掃すべきものであります。

然り乍ら未だ進化の道程にある全人類は不幸にして理想の成熟を遂げ得ぬのであります。人類の性慾は聖潔られず人類の聖望は高からぬのであります。彼等は一躍せんとして一躍なし得ず轉化せんとして轉化なし得ず依然として半神半獸の寂寥と滲憺とに呻吟しつゝあるのであります。

◎私は此地上の現狀を斯くの如くに觀想し斯の如くに沈思しつゝあるも尙只管に公娼制度の廢止を力說せんとする日本國の極めて頑健なる一臣民であります

殊更に此世の智者學者が生理上より經濟上より法律上より衛生上より如何に滑かなる舌と巧みなる筆とを以て多端に論難嘲笑せらるゝと雖私は公娼制度を目して封建制度の腐熟せる殘留物となし——人類の彌高き純愛の道念より此等の奴隷的制度の廢滅を飽くまで高唱する一人であります。

◎私が岡山市の遊廓移轉問題に關し限りなき喜悅と滿足とを感ずる所以は私が私の理想に達する消極的の一階段として適應の助力を致さんとする魂の欣びなのであります。

◎私は銹くさる黃金の鎖鏈に束縛せられ——無慘なる義理の桎梏に轉輾せる是等の寂しき婦人達にも私相當の哀しき理解と同情とを持ち得ます。娼妓の爲に僅に一撮の糧すら殘らざる彷徨へる放蕩者にすら適宜の克容を抱き得ます。

然り乍ら彼等を如何に藝術的に裝飾するにしても要するに彼等は光明の宇宙に住居するには餘りに不適當の者であります。廢爛し遊廓に足を入るゝ一切の人々は光明を惡みて幽暗を愛する人々です白熱の太陽に背を向けて暗黑なる幽暗の裡に盲動する汚辱にかゝる人々です

◎殊更に靈能の達人たる熊澤蕃山黑住宗忠等に靈化せられし岡山市の中央部は輝ける場面でなくてはなりませぬ。天下の靑年が自由に大膽に濶步なし得る處でなくてはなりませぬ。然るに此最も光輝ける岡山市の心臟部が醜惡無慚なる罪惡の宴樂の地として選ばれつゝあるといふ一事は恐らく日本國の敎育都市として名高き岡山市の不名譽なるのみならず彼等自身にとりても迷惑至極の事かと思はれる若し岡山市の「經濟」にして許さるゝならば彼等をして至も速に狹くして暗黑なる地上の一隅へ竊に轉住せしむるが我儕のみならず彼等一同の幸福であります。何となれば異性を蹂躙戲弄せんとする遊客一同にとりては宛然蝙蝠の如く土鼠の如く强くして鮮なる光線は彼等の最も堪へ得ざる處であるからでありま

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

す。闇黒の子供の最も畏懼るゝものは光の衢であるといふ事も最も顯著なる地上の一大事實であります。

◎勿論此憐憫むべき異性と雖も亦、陛下の赤子であります。母もあります。父もあります。純白なりし處女時代もあつたのです。成程彼等が如何に無自覺なるにもせよ如何に彼等が頑愚なるにもせよ彼等も亦我儕の姉であります。妹なのであります。

私は自分自身の性慾が如何に熾烈なるにもせよ自分の姉と妹とを褻瀆に忍びない者であります。然り乍ら私は彼等を親愛すると共に又彼等を憎惡する者であります。何となれば彼等を『憎む』其事は即ち彼等を『愛する』其事だからであります。

◎終りに若し私に對して「貞操問題」「公娼問題」等の輿論を喚起するに最も徹底せる適者の聲は誰人によりて發せらるゝものなるかと問ふ人がありますならば私は直に答へて申すでせう。

其は未だ家庭を創造せざる大日本の潔くして彈力强き天下の青年男女が東方の君子國と自讃せる日本國の狀現を誘察して「噫信なき悖逆世なる哉」と彼等が魂の奥殿より慨然として發せらるゝ悲憤の叫びであると、いふ事を聲を强めて申すのでせう。

所謂私娼撲滅

救世軍大佐　山室軍平

警視廳の所謂私娼撲滅といふことが始まつた。我ら警視廳で骨を折つても私娼が全く絶る見込のないのは分り切つたことである。併し乍ら今の所謂私娼撲滅は十東町、神田、郡代などいふ如き准公娼を撲滅することをいふのであるから。之は私共も、賛成である。今迄あゝして置くべき筈ではなかつたのを今日大に取締ることとなつたのは喜ばしいことである。其の爲これ迄私娼をなしたる者にて、歸鄕することも出來ず、さりとて堅氣にはなりたいといふ樣なのは救世軍は幾らでも引取つて其の保護に任じたい積りにて、既に警察の手を經て東京婦人ホームに送り來られた者も數人がある。

既に此種の私娼を取締るからには、所謂大正藝妓などいふ醜業婦を嚴重に取締り、之を撲滅する迄盡力せらるべきは當然の事である。私共は此點に就いての警視廳の成功を祈るのである。同時に藝妓といふ者も今では全然醜業婦に外ならない。彼等は一種の私娼である。然るを藝人扱ひして都會の眞中に住ませ、如何なる貴紳の宅にも、又は公の宴席にも出さするのが何よりの不都合である。私娼撲滅の手は此方面に揮ふて、大に活躍を見るに至らねば滿足が出來ない。

所謂私娼撲滅の爲に、公娼を奬勵するのは全く時勢後れのやり方であると信ずる。警視廳が七月限り貸座敷の賣店を禁ずることとなつたのは愉快である併し其の代りに飲食店を兼業することを許したのは誤つて居る。板垣伯が内務大臣であつた頃遊廓の問題を取調べ、廓内では一切飲食をさせぬが可いといふ結論に達せられたがそれを實行する前に地位を去られたのだらうであるが、如何にも尤もなる意見である。遊廓内では一切飲食物を鬻ぐことを禁ずべきものである。然るを貸座敷業者に飲食店を兼業させベアの樣なものを造つて盛んに遊樂者を誘致せしむる如きは不都合である。

娼妓に外出の自由を與ふることゝなつたのは、彼等の束縛を寬くし、廢業したい時はこれ迄よりも容易に之を果たし得るに至つたものとすれば、それは好い事である。併しどんな手加減で之をやらるゝのか、實際を見屆る迄は容易に何んとも言ひにくい。三十坪以上の建物に限るとあつたのを、其れ以下でも可いことにしたのは左もあるべきことと思ふ。貸座敷が何れも大厦高樓を構へるのは謂れなきことである。併しそれを機會に新に多くの小さな貸座敷を增設せらるるのは忍ぶべからざることである。或は此程廓内に「ニツカ」を禁じ、道中を禁すること、又折々貸座敷業者と娼妓との貸借關係を取調ぶると、年期の短縮を奬勵すること等は何れも望ましき事である。但し吉原あたりで大門の外に、夜だけとは言へ、他に四五の門迄開かすことにしたなどは、一向其の意を得ない。

之を要するに、所謂私娼撲滅は好い事である。併し公娼の奬勵は全然間違つて居る。宜しく少く共公娼を順次縮少する位の方針は取るべきものであつた。併しそこになると根本的に醜業に關する當局者の立場が間違つて居る。どこ迄も公認の醜業婦を供給すべきものといふ迷信が累をなして、此方針を取るに至つたものであるから、此問題に對する解決の前途は遼遠であると謂はねばならぬ。

けれ共警視廳が此方針で一二年努力した結果は、案外にも公娼廢止でなくては駄目だといふことに心付くべき筈と思ひ、決して失望はしないのである。

廓清春秋

河合北洲

加減か乘除か

火上更に火あり、勢力の下半も亦燃ゆる火力なりとは、炎熱の二字也。炎熱人に迫るの今日、人類は何を以て此火軍と戰ふべきか、汗と膏の發射なるか。將又山村水廓に三十六計の退却を圖るべきか。

時は是機也。山高に長嘯する可也。山深に游泳するも亦可也。何が故に血氣の勇者が所謂避暑せざる可らざるか、何處にか炎熱の追跡せざる所ある、寧ろ我炎熱を追ふて征服するに如かざる也。炎熱の征服は飲食眠浴の細心なる加減に在り、衣服住居の適宜なる乘除に在り加減乘除尚足らざる乎、心頭を滅却すれば火も亦零たるべし、零たるの冷灰を求むるよりは、我を燃やすの熱力に我燃ゆるに如かざる也。

宇宙の熱力は太陽也。彼、幾萬々哩の空間を遠しとせず、幾萬萬年の時間を長としせず、刻々絶大なる熱力を遊星に贈れば、遊星も亦好意の利用を誤るものに非ざる也、ストーブ漸く熱して空氣を暖むれば、嚴寒氷を鎖すの冬宮も、何時か花鳥を誘ひ、人類を慰むるの陽春となり、更に呼吸を熱して海面に注げば、蒸發せる水はポンプの如く、雲を醸し、雨を呼び、河流に急ぎて水車を運轉す、運轉し又運轉する水電の玉手箱は、電車か電燈か、電扇か、出づるものの愈々妙ならんとす、地下幾千尺の石炭も、出て地上のスウヰートホウムを司會するに至らば、其爐中には光彩を放ち、工場には頑鐵を鑄るのコークスとなりて、幾萬年太古の情熱を語るべく、眼前の光熱も亦粒々の種子を哺育して、時日の間に新綠欝として碧空を蔽ひ、彩花燦として天上の星羅を辱しむるあり、宇宙の活動は熱の勢力也、熱の千變萬化せる顯現たる也。

既知數か未知數か

物心相接せざるなし、形以下の勢力は直ちに又形以上の勢力也。熱の分量及増減は人生の氣力に關し社會の隆替に關し、國家の興亡に關す。

熱なきの頑骨に發達なく、石婦に生殖なく、家庭に溫情なく、事業に膨脹なく、教育に效果なく、運動に熱力なく、國家に活動なし。熱は生命に非ざるも、生命の第一要件也。かくて熱の增減も亦直ちに國家社會の盛衰興亡史なる也。文藝の希臘は如何、武勳の羅馬は如何、宗教の猶太及印度は如何、活力なき形骸を擁して骨董的國家の維持に苦しむもの豈に獨り二三のみならんや。有言なる土偶を列ねて、情愛なき瓦礫の乾燥生活を嘗め、以て生々の情を虐ぐるものも又豈に一種の舊家庭のみならんや。顔色憔悴の神經衰弱、形容枯稿のヒステリーに、奮鬪の勇

なく克己の力なく、向上の望なく、夏には夏の盛に恐れ、冬には冬の戰慄を感ずる冷弱者、豈に獨り老人女子のみならんや、到る所に萎び行く老靑年を見ずや。

一夢は人生也。眠り去つて已知數の肉界に夢死すべき乎、覺め來つて未知數の靈界に新生すべき乎、轉機と成否は熱力の有無續否に存す。滿心身の熱を發揮し、鼓舞し、激勵するの遊、超越の道は開け、靈眼の明は轉化す、熱は理學的の力を以て化學的の事を行へば也。自己超越の革命史は赤熱の發奮史也、靈界の向上々々は白熱の程度史也、歷史は幾回轉す、回轉の障礙に肉欲あり、誤解あり、嫉妬あり、利己あり、屢々人性の病的黑熱を曝露せざるに非ず、黑熱を征服するは、炎々たる白熱に在り、滾々たる生々の勢力を長へに培養するに在り、正にこれ人生、無垢なる靑春の特有せる特權に非ざる歟。

平行線か立方體か

禽獸の能く飛走するは、本能の平行線上に畫けば也。人類の能く歩行するは、本能の立方體上に立てば也。畫く平行線に羽翼四肢の自らなる定規あるが如く、立つべき人類も亦智情意の立方體に安心立命のコンパスなかる可らざる也、安心立命のコンパスとは神意の充實これ也。蓋し知識のみの滿足に非ず、意思のみの强固に非ずして智情意の理解と滿足すべき神意の充實たらざる可らざる也。

神に至るの道あるべし、神を敎ふるの宗敎あるべし、惟神自らを與ふるの神あるなし、その隨にこれあるは十字架上に血を流せし基督の靈愛に始まる、之ある哉之ある哉、此御心の靈愛なくんば、醉眠より醉眠に落ち行く人類の惰性、覺醒の途なく。水心より氷點に走る人類の冷刻、暖むるに期なく。禽心獸行を恥ぢざる人類の罪惡、洗ふに由なからんとす。釋迦の慈悲敎、說いて深遠ならざるに非ざるも、厭世の寥味星の如きを如何。孔子の仁道敎、敎へて平易ならざるに非ざるも、中庸の淡泊月の如きを如何。彼等熱なきに非ざる也、潛熱の熱也。基督の靈熱直ちに人に迫るが如きに非ざる也。太陽により地球に、三十五萬倍の重力と、一分間一平方米に三馬力の熱を與ふるの神は、又厚さ、幅さ、深さを測る可らざるの靈熱を以て、基督により人類に光被し、熱被して已まざらんとす、宇宙最大の勢力は熱愛也。最後の勢力も亦熱愛也。此熱愛は既に靈化し、靈動す。萬波靈動して、一波僅かに靈動する能はざる乎。

靈動の連續と不斷の循環法は、受くるよりも與ふるに在り、與へよ、獻げよ、凡てを棄てよ、自己の所有は自己を局限する也、神との交通を謝絕する也、少くとも此謝絕を遠慮するは神心の充實を導くと與に、併せて隣人の救極たるべき也。

惰る者よ。爾は與へらるゝ熱愛靈愛萬石の只中に在りて、與ふべき汗と膏をも惜まんとする乎。爾の心と、勞と、物を與ふべき隣人を如何にせんとする。抑々又、爾の眼前脚下、爾自ら自らを與ふべく、自らを燃やすべき問題を如何にせんとするや。生の日は長からず、惠みの量は少からざる也。

前號に報道したる佛敎徒社會事業研究會は此程愚、宗敎侮辱・賣淫獎勵劇取締の請願を東京府會を經て一木內相に提出した。佛敎家の覺醒を喜ぶの情に堪へざる我等は、切に基督敎徒殊に牧師諸君の無自覺を惜しむ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

盆踊禁止論

廓清會群馬支部委員　森川抱次

由來盆踊問題に對して一部人士の間に甚しき誤れる觀察を爲しつゝあるものあり、彼等は其眞相を知らずして唯皮相の觀察より斷案を下し直ちに農村の娯樂機關として適好のものなりとなす、蓋し農村問題研究の急を要する今日に當りて殊に最も缺乏を感ずる娯樂問題を求むるに急なるの結果、玉石混淆の弊に墜るものに非らざるなきか、明治十年太政官の布達を以て盆踊を禁壓したるより以來、此の惡風習を打破んが爲めに、當局と村落の先進者が今日迄拂ひ來りし犧牲とは決して鮮少のものに非らず爲めに漸次衰頽し來り殆んど其の影を沒せんとしたるなり。當時の爲政家たりし廟堂の諸公は新進氣鋭の壯者にして、我日本の社會を改善する爲め苟くも取る可きは如何なる犧牲をも辭せず、其の惡俗を打破するや少しの躊躇を許さゞりき、開國進取の國是は遺憾なく實施せられたりき、日本青年は此の眞面目なる諸公の導きによりて勇往邁進したりしなり、我日本の今日ある所以のもの蓋し此處に存す。然るに近來我社會の趨勢は頗る逆轉の傾さを生じ人心大に弛緩せるものの如く青年日本の元氣は消磨して漸く老境に入らんとす、顧れば世界の大勢は歐洲の大戰亂の打擊により却つて人心の緊張を來し、從來の僞善なる文明より覺醒しつゝあるの今日に至り、我日本は將に惰眠に陷らんとす。如斯秋こそ最も警戒す可きの時ならずや。

殊に我國に在りて最も改善の急を要する處のものは地方の風俗となす、而して地方は國家の基礎にして風俗は人民の健不健の根源なり、故に地方風俗問題は國家の重要問題とす、殊に其の青年の風紀少年敎育に及ぼす處の盆踊問題の如き決して輕々に看過す可き問題に非らざるなり。

盆踊なる其ものを捕らへて、直ちに其是非を論議する時は唯一槪に害惡なりと論斷するは餘り嚴格に失するものなる事は余輩も又是れを知るなり、盆踊も又手踊の一種として是を或る種の場處を限り或る範圍の人を以て是を爲すに於て適好なる農村娯樂なりと云ふを得ざる迄も、又以て害惡として非議する程のものならざらん、然れども、從來有り來りの盆踊其者を以て如何に取締りを爲すとも到底其害惡を防止し得ざるは事實が證明して餘りあるなり、猶演劇其者は或る意味に於て尊まる可き藝術として今日の社會に必要視せらるゝも、是を素人芝居として今日の農村青年に對し、昔時の如く自由に行はしめば、其の害惡の及ぼす處果して如何なる可きか、盆踊も是れを或る工場內に於て工男工女の娯樂として一定の取締りをなし得る範圍に於て是を行はしむる如き其弊の及ぼす處極めて尠なし余

然らば何故に盆踊問題に就て、論議するかと云ふに從來我群馬縣下に行はるゝ處の盆踊りなる者は多くは是れ村落青年男女間に行はるゝものにして夏時戶外の圍なき廣場に於て、青年男女が夜陰種々の變裝を爲し、打混じりて極めて卑猥なる、歌の調子に合はせて踊り興ずるなり。是を外面より見れば少しも其間に弊害の認むる無し。斯る其場限りの有樣を見て直ちに盆踊は如何にも農村の娯樂として少しも弊害なしと斷ず、是れ殆んど皮想の觀察にして實は害惡は其處に現れずして其以外にあり、縣當局の取締りと稱するは其の踊り場に就ての事ならんも、實は敵は本能寺にあり茲には存せざるなりと云ふも不可なし、當局が特別の取締法を設け、一定の場所を屆出せしめ相當の監視の下に擧行せしめむとするも、其れは所謂從、踊人としては晴れの舞臺にして其處に出動する以前に大に修養を要する都也、故に其部落々々に於て稽古的、小集團は隨所に行はるゝなり、其場處は多く人家を離れたる、寺院の森、社頭の陰暗き處に於て行はるゝ也。其れも同一單調の踊りなるが故に同一の人が長く持續すれば、自然其の興の盡くるを以て其の小集團は去つて他部落に押掛くるなり其處にて暫らく又踊り狂じて乙部落の集團と合して其處を去り丙の部落に往き其處にて暫らく又踊り狂ずる也、斯くして甲部落より、乙丙丁の部落に廻り青年男女打混りて卑猥極まる歌と、服裝と共に殆んど青春燃ゆるが如き彼等の肉情をそゝりつゝある也。斯くして夏の夜の短時間に更くるを知らで遊び廻るなり、是等は七月始めより十月の始頃迄殆んど每夜の課程とも見る可し。斯くして習得したる踊方を以て大集團の謂はゞ願濟みの晴れの舞臺に推し出すなり

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

今夜は甲町、明夜は乙村と二里三里を遠しとせず、己が自慢の踊方を是見よがしに出掛るなり、往き歸りは青年男女打混じ巫山戯放し有ゆる馬鹿眞似を爲しつゝ殆んど言語同斷の猥舞を見るを得可し、如何に盆踊奬勵論者も一驚を喫する外なかるべし。

以上の如き場合に於て彼警察は如何に取締りを爲さんとするか、到底之れを完全に爲し得ざるは論なし、絶對に禁止する方針は却つて取締上易しと雖ども、如斯各部落に於て爲されつゝあるものに對して、今日の警察力を以てして緩慢なる方針を以ては其如何とも爲し得ぬは當然なる事なり、斯くして夏の夜の村落は殆んど踊の村落と化するなり、風俗壞敗の村落と化するなり、當局に於て取締りを爲すと云ふ所謂顧術の場所より、其の往來と稽古場に於ける弊害こそ眞に驚く可きものあるなり、加之ならす一般青年に及ぼす、惡影響は如何、是等は恐らく世に氣付かれざる點なるべし、盆踊の盛んに行はるゝ時代には、教育ある眞面目なる青年輩の勢力は失墜し、歌の撰手と踊手の撰手と所謂平素蕩兒的青年、御轉婆娘、僅かに勢力を占むるに至り、從つて局面の狹き、村落の如きは其教育ある眞面目の青年も、自然其下風に屈せざるを得ざるに至る、否らざれば遂に彼等青年間に排斥せらるゝに至るなり、非凡の青年輩に非らざる以上は、到底彼等の伍を脫出して、超然たり得るもの有らざる可し、結果は村落を擧げて青年の風紀を頽敗し盡すに至る也。青年指導を以て任ずる輩が常にこの點に向つて反對を絕叫するを、唯杞憂とのみ見るは、大なる誤解にして、曾て辛らき實驗を存するが故なり、而して、此の惡風習が、少年少女に及ぼす點を如何に見つゝあるか、殊に範圍の狹き村落に於て每夜踊り囃す、其狂態は、直ちに無垢なる彼等の心身を引付け不知不識是を眞似るに至る、遂に小學校の往復にさへ、踊拍子の足步をなし、唱歌は、何時しか卑猥なる盆踊歌と化するに至る。

余は曾て、當局に聞くに、各警察署より集めたる、音頭歌の原稿の如き、人情物や、歷史談、豪傑物語の類が多くして、斯くの如くなれば、左程の害なきにあらずやと、亦是れに相當の改良を加へなば豈に何害とのみと云ふ可けんやと。乍併是等も、恐らくは、其實相を知らざるより、來れる論のものにして、彼等は、喃の舞臺なる大演習台にて以上の如き人情物や、歷史談等の段物なぞを持出すも、其の村落に於ける、多く行はれる踊場に於て歌はれるものは、其卑猥聞くに堪へざるもの多し、是等も盆踊の撰手は多く無教育者なるを以て、自然其の歌も醜劣に流るゝは當然なり、而して今日の盆踊其自體が卑猥に非らざれば、彼等に興味少なきなり、故にこれに改良を加ふると稱するも、斯くなせば、彼等に取りては殆んど骨拔鰻たるのみ。

猶盆踊奬勵派も、今日の儘にては其の有害なるを認めつゝあるは事實なり、故にこれに改良を加へなば害毒なけんとは稱するなれ、然らば何故に相當の改良を加へたる後に於て、是れを認許する事とせざるか、相當の取締をなさば害を除き得んと稱す、然れども未だ其取締法に就ても、適確なるものを握り居らざるに非らずや、恰も毒物の含有せる食物を以て、客に供しながら、是改良を加へば、毒量を減じ得べし、又相當の消毒方法を用ゆれば、食しても害なけんと云ふに同じ。

凡そ娛樂なるものは、其の根底を趣味に基す、而して其の趣味は高潔なるを要す、殊に男女青年に對しては、努めて、趣味の向上を計らざる可からず、人格の基礎又茲にあり、而して趣味の高下は、平素の修養に基く、彼等の趣味をして常に健全なる上に導かざる可からず、娛樂に二方面あり、一は硬派的にして、一は軟派的なり、而して青年の娛樂は、是を硬派に導かざる可からず、娛樂は兎角軟派に傾き易し、故に努めて彼等をして硬派に馴らしめ以て習性を爲さしむ可きなり。抑も趣味なるものは、俗人の見て、以て無味乾燥と爲し却つて勞苦多からんとするものも、其者にありては趣味津々として殆んど盡くるを知らざるものの如し、恰も學者の研究に於ける無學者より見る時は、殆んど其の意義を解するに苦しむが如きも、彼等學者に取りては到底他人の窺ひ知る能はざる趣味の裡に包まれつゝあるなり、趣味其ものは、各個人の奧底に祕める、或る神祕的のものにして、是の趣味が高潔健全なるものを有する其人は、最も幸福の人たるなり、故に青年に對する、趣味の教導は、大に意を致さざる可からず、青年角力、柔劍術の如き、遠足旅行の如き、讀書の如き、俳句會の如き又農村に在りては、農作術の競技の如き、實益を兼ねたるもの決して、尠なしとせざるなり、演劇、手踊りの如き、軟派的娛樂は、さなきだに柔弱に流れ易き、今日の社會に在りては、殊に青年に對して之れを避けざる可からざるなり。

四月十七日三重縣下を旅行致し居りまして津より四日市に進行の汽車中、大阪新聞に目を曝し、「飛田遊廓指定」の記事を見出しました、瞬間の驚きと悲しみは、實に最愛の獨子を頓死させました樣な思ひにて、何とも云ひ知らぬ感に打たれ、思はず涙は頰を傳ひ、同行の友に語るの力もなかりしが。豫定の集會を了へ、十八日夕方大阪へ歸りました、留守中に宮川牧師より通知あり、名出夫人驚きて來られしとの事にて其夜は靜に祈り考へて、翌十九日朝、釘宮牧師、一宮中校と共に、名出牧師宅に集まりて祈り、知事及び警察部長を訪問し、夕刻は青年會館の向ひ西宗旅館の一室、(上毛孤兒院金子氏の宿泊室)に集まりて、教役者並に青年會理事諸氏と相談會を開き、即夜上京、以來八十日、平生よりも一層戰場に在るの感を深くして、多忙なりし六月に別れ、明日より迎へんとする新しき七月には、更に新しき針路を、神に示されて進み出でなん、今回の出來事を考へますに、

飛田問題に對する覺悟

大阪婦風會長
廓清會評議員　林　歌子

□因襲の誤謬

大阪の如き市中の各所に遊廓散在して大厦高樓良家と軒を並べ、電車は其前を通過して敢て怪ます、貸座敷の主人が名譽職に撰ばれ、公人として社會に立つも當然の事の如くに怪まれず、先年埼玉縣下に於て貸座敷業者が町長に撰擧されし事あり、志賀清光氏(基督教牧師)立ちて反對の聲を揚げ遂に其町長は辭職をなしたる如き事あり。我國に於ては未だ賣淫に對する感念神經鈍く、罪惡と感ずる念薄し、これ全く多年の習慣人心を痲痺せしめたるものにて、引きては海外醜業婦の出稼となり、藝妓の跋扈となり國辱を海外に曝す其原因は『源濁りて末潔からず』にて、國内に於て大びらに賣淫業を公許し、而して之を遊廓業一種の營業の如くに看做して怪ます、外國の旅客がホテルに宿泊するや、旅行案內の一に吉原見物を加へて少しも恥ぢずとは、何たる事かと存じます。

□可憐の奴隷

外國婦人すら吉原を見物して時々身を慄はして泣かるゝと申しますが、私共には眞に堪へ難き思ひが致します、軒を並ぶる妓樓に十人二十人が鐵柵の中に並び座して、煙草盆を前に鏡を取り出しては白粉を整ふる樣を目擊致しては、實に動物園の動物も、これよりはもつと精神上の自由はありますと、坐ろ涙に咽びます。「遊興費六十錢軍人に限り五十錢」など貼り出したるは、何なる暗黑社會なるか、實に全國五百の公娼は、白奴(ホワイトスレーヴ)の扱、私共の姉妹に、間違たる道德のために、猿轡をはめて醜業を營なましむる貞操賣買の奴隷制度、宛も賭博に公許を與へ、盜賊に免許を與ふるが如し、かゝる場所は機會ある每に、之を減じ、之を社會より葬るべきものにて、明治四十二年の北新地の大火、同じく四十五年の南地の大火の如くに燒けたる者は再興させぬといふ方針こそ、適當の事と信じ居り

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

大阪に今頃新遊廓の増設といふ事が、良二千石大久保知事の時代にあらうとは、思ひ設けませなんだので、實に殘念に堪へられません。

□實地教育

公娼全廢の根底に立ちます私共は、絕對に增設には反對致します、同じ事ながら特に今回の場所は周圍に學校をとりまき、桃山中學の如きは、五百三十名の生徒は飛田遊廓に沿へる電車によりて通學するといふ、其兩親の心配教育者の苦勞は大變な事と信じます。

教育は耳よりも目よりといふ事を考へますならば、朝夕通學の生徒の心に、こゝは遊廓なりといふ觀念を起させることはどれだけ教育上有害なることゝ憂懼に堪へられません。

人生の教育も米を作る如く夫々大切なる時期ありとすれば、中學四五年の時代は二百十日と申すべきか、親の最も苦心致しますのは此の時代であります、飛田遊廓周圍の學校は、皆中等教育以上の學校にて、喧しかりし遊廓が出來た、どんな處か一度行つて見たいといふ樣な好奇心から、一度足を向けたが病付となりて、其終生を誤る青年が一人でも出來ましたなら、どれだけ不幸を其兩親一家に及ぼしますか、此間も飛田遊廓の實地を見たいと、彼處へ參りましたら、小作の農民二十一名は業を失ふと申して嘆いて居りました、人の父らしき二人の男子が「あゝ此處にいよ／＼遊廓が出來たならまた澤山に親を泣かせる放蕩者が出來ます」と申しました其言葉は私には腸をえぐる樣に感じました。

此の一語は實に心ある市民の聲と信じます、私共は之を單に大阪市の問題と解せず、日本全國民の問題として、心ある者の蹶起を熱望し、斯樣な醜域の撤廢を希ふて止まざるものであります。

大正四年度事業報告

廓清會理事　益富政助

大正四年度に於ける事業はやはり演說會と雜誌發行が主なる運動である。本年度に於ける雜誌の發行總數は四萬六千部で、會員の外に縣知事、警察部長市長、警察署長、新聞社、遊廓等へ寄贈した。外に一枚刷のものを一萬三千部ばかり印刷して諸方面に配付した、演說會を開いた事は、本年度は大小合せて二十四回、辯士の延數(司會者共)七十八名、聽衆總計一萬五千人に達し、茶話會的の小集會が約十回、此來會者計四五百人である。今年度に於ては茨木、吳、神戶、橫濱、宮崎、の五ケ所に新に支部組織を見る事になつた。今月を逐うて經過を報告すれば、

四月　花魁道中禁止請願書を提出して成功す。青年會館に於て禁酒會、矯風會と三派聯合にて演說會を開く、聽衆千二百名。辯士益富、矢島、林、安部、山室。

五月　京都市會議事堂に於て廓清演說會開催・聽衆千人。辯士、森村、安部。

京都鐘紡支店にて聽衆三百。辯士安部。

千葉縣五井町にて聽衆二百。辯士、小池、益富、油谷伊藤。

七月 青年會館に於て總會を開き講演會を催す、聽衆七百。辯士、高島、元田、須藤、內ケ崎、安部、

八月 輕井澤にて外國人に對する運動をなす

九月 京都に於て矯風會、青年會と本會支部聯合にて演說會開催。聽衆千名。辯士、原田、益富、山室。

大阪公會堂に於て同上、聽衆二千五百名。辯士、高木、馬切、益富、矢島、山室。

神戶に於て矯風會と聯合にて、聽衆千五百名辯士、矢島、原田、山室。

栃木縣茂木支部發會、聽衆五百名、辯士、牛田、安部。

議長官舍に於て御大典に藝妓の跋扈を禁ずる事を主題として評議員會を開く。

九月號を休刊し十月倍號として御大典奉祝準備號を出す。

十月 朝野の名士三百名に對し、一、公娼の廢止、二、藝妓を公會の席に付せしめざる事に就てハガキ封入にて贊同を求む。約百名の回答あり。

評議員會の決議に基き、矢島、油谷の二氏首相を訪問して希望を述ぶ。

牛込教會の主催にて早稻田教會にて廓淸演說會開催、聽衆百名。辯士、平沼、松宮、伊藤、治部

大正會の運動を起し伊藤主事は連日朝野の名士數十名を訪問し、加藤弘之、井上哲次郎、天野為之、澁田謙藏、辻村楠造、手島精一、片山國嘉、平沼淑郎、安部磯雄、櫻井錠二、江原素六、島田三郎、山川健次郎、三島毅、新渡戶稻造、浮田和民、村上專精、原田助の二十氏を得た、於茲趣意書千數百枚を宮內省、樞密院、師團長、司令官、學者、名士實業家、教育家、府縣知事、內務部長、警察部長警督、縣會議長、市長、市會議長、日刊新聞社等へ葉書封入にて贊同を求め、六百名の回答を得た。

更に島田會長は宮相、內相、及び德川家達、德川達孝の諸氏に意見を述べ、矢島副會長は、首相、內相、文相、宮相を訪ひ、益富理事は警保局長、警視廳及び京都府長、京都府知事に意見を述べ、加藤弘之男は警視總監に書面を送った。

吳支部發會式を擧ぐ、聽衆二百。辯士太田、益富、

神戶支部發會式を擧ぐ、聽衆、五百。辯士海老名氏外一名

青年會館にて大正會の名を以て藝妓問題演說會を開く、聽衆五百。辯士、浮田、三輪田、安部井上。

青年會館にて矯風會と聯合主催にて同上、聽衆千名、辯士、內ケ崎、益富、矢島、伊藤、島田小林

牛込會員家庭會を開く、其後麻布、本所等に於て引續き數回開會。油谷、松宮、顯島、伊藤氏等出席。

十一月 加藤男の名にて大正會贊成者三百四十名の總代として警告狀を各府縣知事及市長に出す趣意書に贊成者の名を列ねたる一枚刷を一萬枚印刷し各方面に頒布す。

群馬支部演說會を開く、聽衆百、辯士德江。

十二月 本會役員が本會運動に關してではないが平素の功勞を認められて叙勳の光榮に浴せられた、即ち森村氏が男爵に、島田氏が勳二等に、江原氏が三等に、原田助元田作之進の二氏が五等に、矢島楫子、津田梅子の二氏が六等に、山室軍平氏が藍綬褒章を叙授せられた。

一月 橫濱支部發會式を擧ぐ、聽衆千名、辯士三宅油谷、安部、山室、祖師、林、二宮、三浦知事代理。

此月御大典運動の記念として見るべきは、京都に市內八ケ所の遊廓營業を禁止せられた事。

二月 宮崎支部發會式を擧ぐ、聽衆二百名、辯士、益富、西內、外に觀辯數氏及知事代理。

此月最も悲しむべき出來事は加藤弘之男の薨去である。耶蘇嫌ひを以て有名なる博士が、本會には最も熱心なる援助を與へられて、博士によつて御大典の際の運動の如き何れ程好結果を得たか分からなかつたのであつた。八十歲の高齡又止むを得ぬとは云ひ乍ら哀悼追慕の情に堪へぬ。

青年會館に於て演說會を開く、聽衆七百名、辯士、向、內ケ崎、有馬、矢島、山室、油谷。

長野縣中野町に於て同上、聽衆三百名。辯士、油谷、伊藤。

長野縣須阪町に於て同上、聽衆百名。辯士、油谷伊藤。

長野市に於て同上、聽衆二百。辯士、油谷、伊藤。赤星縣知事を訪問。

三月 學生品行問題に就て理事會 東京に於て始めて工場傳道を試た、東洋モスリン會社にて聽衆二百、辯士、三輪田、伊藤
大阪支部總會及講演會聽衆五百人、辯士、惰宮グリスン、宮川。
青年會館に於て矯風會と聯合にて開會、聽衆千人、辯士、宮田、伊藤、安部、吉岡、井上、島田。

大正四年度收支計算報告

自大正四年四月至同五年三月

廓清會理事　山本邦之助

收入之部

贊助員收入	五六九、二五〇
正會員收入	一、五四二、六九〇
雜誌及トラクト收入	五七、六五〇
廣告收入	八二、〇〇〇
入場料收入	一六一、〇〇〇
寄附金收入	三〇九、八六〇
貯金利子	二、四六〇
現金(前年度より越)	二七、七〇〇
計	二、七五二、六一〇

支出之部

雜誌費	一、二一九、七七〇
編輯費	九八、七一〇
印刷製本費	八九二、八〇〇
發送費	二二八、二六〇
事務費	一、三一五、八〇
通信費	一三二、三二〇
交通運搬費	一三七、六一〇
文具消耗品費	二八、三一〇
印刷廣告費	一〇一、七五〇
派費	四五、九九〇
備品費	九、四〇〇
圖書費	三、五五〇
振替口座使用料	一一七、七七〇
事務所費	四六、五五〇
俸給及諸給	五〇九、〇〇〇
雜費	三四、〇五〇
雜損	四九、五〇〇
集會費	三〇一、〇八〇
會場費	九二、七〇〇
通信及運搬費	四、一七〇
交通及旅費	二二、三三〇
文典及消耗品費	一三、一三〇
廣告及印刷費	八五、八八〇
辯士謝禮	四八、〇〇〇
雜費	三四、八七〇
現金(大正五年度へ越)	一五、九六〇
計	二、七五二、六一〇

廓清會本部

大正四年度會計報告

自大正四年一月至同年十二月

大阪支部會計　名出昱子

一金八百圓拾錢六厘　總收入高

內譯

金二圓九十四錢四厘	前年度越高
金四百二十六圓十錢	贊助會員會費
金二[illegible]八十五圓七十一錢	正會員會費
金[illegible]三圓八十錢	廣告料
金[illegible]錢二厘	銀行利子
金十[illegible]七十五錢	雜誌賣上代

一金七百八拾五圓七拾錢五厘　總支出高

內譯

金七百二十圓	本部へ送金
金四十一圓二十六錢	集金人手當
金二十四圓四十四錢五厘	郵稅並雜費

一金拾四圓四拾錢一厘　差引殘高

五ヶ年間の事業

自明治四十四年七月
至大正五年六月

廓清會創立以來滿五ヶ年に達したが、數字の上から共一部の事業經過を報告すれば

雜誌の總數十七萬三千部トラクト七萬八千部・演說九十三回、辯士三百五十一人、聽衆四萬四千人

□次號豫告□

□廓清時言…………伊藤江南
□一人一婦の道…………井上博士
□純潔と人生…………宮川經輝
□中平文子引導事件…………高島米峰
□無學な役人…………向軍治
□淪落女百五十人研究…………山室軍平
□賣淫婦取締に就て(談)…丸山保安部長
□男女の地位に就て…………吉岡彌生子
□夏期休暇の修養…………三輪田元道
□天鼓の響き…………同志の聲
□廓清春秋…………河合北洲

役員改選公告

大月二十四日、第五回廓清會總會は、役員改選を行ひ、左の諸氏を推選仕り候

會長 衆議院議長 島田三郎氏
副會長 婦人矯風會頭 矢島楫子氏
同 早稻田大學教授 安部磯雄氏
理事 救世軍婦人係 伊藤富士雄氏
同 早稻田大學教授文學士 內ヶ崎作三郎氏
同 救世軍大校 山田彌十郎氏
同 東京青年會主事 山本邦之助氏
同 日語學校講師 松宮彌平氏
同 鐵道青年會理事 益富政助氏
同 青年會同盟幹事文學士 小松武治氏
同 油谷治郎七氏
同 成女高等女學校長 宮田脩氏
評議員 帝大教授文學博士 井上哲次郎氏
同 ライオン本舖顧問 井上胤文氏
同 博愛社理事 林歌子氏
同 同志社大學長哲學博士 原田助氏
同 辯護士 西村勘之助氏
同 前前橋市會議長辯護士 偬江亥之助氏
同 大倉洋紙店主 大倉文次氏
同 法學博士 小河滋次郎氏
同 ドクトル 緒方銈次郎氏
同 新潟教會牧師 長田時行氏
同 英國留學中 加藤直士氏
同 萬年社長 高木貞衛氏
同 新佛教主幹 高島圓氏
同 衆議院議員 根本正氏

同 川口教會牧師 名出保太郎氏
同 文學士 中津粮義氏
同 關西學院總理 鵜崎庚午郎氏
同 法學博士 浮田和民氏
同 富士見町教會牧師 植村正久氏
同 三高教授文學士 栗原基氏
同 救世軍書記長官 山室軍平氏
同 京大教授醫學博士 松浦有志太郎氏
同 京都教會牧師 牧野寅次氏
同 實業之日本社長 增田義一氏
同 婦女新聞社長 福島四郎氏
同 ライオン本舖主 小林富次郎氏
同 靈南坂教會牧師夫人 小崎千代子氏
同 貴族院議員 江原素六氏
同 禁酒同盟會長 安藤太郎氏
同 大阪青年會主事理學士 佐島啓助氏
同 東北學院教授神學博士 笹尾粂太郎氏
同 前群馬縣會議長 湯淺次郎氏
同 大阪府會市部議長 湯淺豊太郎氏
同 三輪田高女校長文學士 三輪田元道氏
同 第一高等學校教授 三並良氏
同 神田教會牧師 皆川晃雄氏
同 大阪教會牧師 宮川經輝氏
同 メソヂスト監督 平岩愃保氏
同 早大教授文學士 平沼淑郎氏
同 陸軍主計監 日疋信亮氏
同 立教大學長哲學博士 元田作之進氏
同 愛光社主 角倉賀道氏
同 角谷和市氏

大阪事件運動資金寄附者芳名錄（三）

一金拾圓也 （澁谷）角谷和市殿
一金拾圓也 （兵庫）岡野岩吉殿
一金貳圓也 （熊本）泉田謙太郎殿
一金壹圓也 （旭川）西田新藏殿
一金壹圓也 （牛込）清水正憲殿
一金五拾錢也 （品川）三津越ヤツ子殿
一金拾五錢也 （牛込）山根菊子殿
一金三拾錢也 （神田）堀江愛三郎殿
一金貳拾錢也 （神田）松井周吉殿
一金貳拾錢也 （札幌）田中正作殿
一金九拾錢也 （埼玉）中里正次郎殿
一金拾錢也 （神田）福島藤七殿
一金七拾錢 （京都）坂田嘉穗殿
一金二拾錢也 （京都）林善三郎殿
一金五拾錢也 （小樽）高商基教青年會殿
一金參拾錢 （滋賀）田中勝三殿
一貳拾錢也 （山口）石川悟殿

累計金三百七拾圓參拾九錢也

謹みて各位の御厚志を奉感謝候。尚大方の御同情御援助を願上候。

會費の納入に就て

會費の前金切になりたる向に對しては、雜誌の封皮に前金切の印を押捺致置候間、郵便集金による時は[illegible]額の委託料を要し申候に付、本誌の終りに綴じ置きたる振替貯金票により、最寄郵便局に御差出相成候樣致度候也。

大正五年七月

廓清會本部

天鼓の響き

大阪飛田遊廓新設に付敢て府當局に直言す

剛健黨同人

生等の敬慕する大久保知事閣下

吾等の如き卑賤の者が閣下の如き高位高官にある御仁に物申すは甚だ禮無きに似たれ共、此拙者は實に吾徒が一片の熱烈なる赤心を閣下に向つて發露せんとするその導線に過ぎず、只生等が内に於て崇高なる感激に發奮する時、其處に心靈の眞の躍動と眞の創造ありと信じ、以て言語によりて之れを閣下に傳へんとするに外ならず。願くは閣下よ「一寸の虫にも五分の魂」あるを思ひ、吾等の衷心の存する處之を了解あらん事を。

先に各新聞紙の一齊に報ずる處あり曰く『大阪飛田に新遊廓設置の許可ありたり』と、噫此時生等の驚愕はそも幾何なりしぞ、驚愕は悲痛に變り悲痛は慟哭に變り慟哭は吾人をして狂せしめんとする程なりき。丼は單に生等のみならざる可く、苟くも憂國の士を以て自ら任ずる人、社會風教の改善を欲する人は勿論、恐らく人道の何たるかを解し善を好み惡を憎む處の人士、否眞の日本國民は皆千萬無量の感慨に打たれしならん。生等は玆に大に大勇猛心を奮ひ起し、乾坤一擲の大決心を爲せり。『吾人の生命は此世の罪惡を一掃し人類同胞を奈落の淵より救ひ出さんが爲には如何なる迫害壓迫將た亦熱烈なる苦痛にも堪ふ可きを確信す。吾人は決して死せず、然り永遠に死する事なく惡と不義不正と飽く迄戰ふ可し、之れ吾人々類の眞意義にして人の尊き所以也。故に生等は今後愈々戰闘を猛烈にし、敵が如何に奇策を弄すと雖も、我既に勝算あり、吾人は只其勝利の日の速ならん事を望む也』と。閣下生等の此意氣を見よ、

敬愛する大久保知事閣下

生等は今回の事件が必ずしも其責を府當局に問ふ可き物に非ざるは知れり、然れ共其府縣下の營業に關する處理等は悉く其府縣當局に屬する者なりと思推す。果して然らば今回の事件は率先責任者は、之れ即ち大阪府當局即ち閣下一身に有之と云ふも決して過言に非ざるを信ずるを以て、玆に生等の心情を披瀝して閣下にもの申さんとするなり。

元來社會に花柳界なるものありて如何に甚數識者を泣しつゝあるは苟も普通教育を受けし者には了解せらるゝ所也。然るを一部社會の害蟲油蟲なるものが、下劣なる性質、游弱なる意志を所有する爲め一時の不潔劣等なる快樂を貪らんとして、ゝ餓鬼の食、蟻の砂糖に於けるが如く集り來る、如斯場所を稱して花柳界といふ、あゝ此花柳界！花柳界は人に如何たる賜物を齎すなるか、生等は之を筆にするを忍ぶ能はざらんと欲するも忍ふ能はさる可からざる也。社會幾多の階級者は此花柳界てふ公認淫蕩所へ群來し、其結果は頓て種々の病症を胚胎するは此迄の世上人士の知る處にして、生等は其病症に罹りて後初めて所謂燒けての跡の火の用心たるの觀あるを慨嘆せざらんとするも能はざる也。而して其害や啻に其人に留まる事なく、之が爲めに家庭に風波を起し延きては國家社會の欠陥に波及するの憂目は、既に内閣統計局に於て調査せる其者の表明する處、生等は最早想を玆に至るに及んで泣かざるを得ず。

特に今回新設されたる飛田遊廓の地たるや、一社會の中心點にして、且其周圍の近邊には多くの中等學校等の介在し居る由なるに、何たる亂暴なる處置なるか!!最早生等は玆に至つて啞然たりき。神聖なる我帝國の官吏と稱する、加も模範たる可き一國の内相が如斯愚策を敢へて爲し恬と愧づる無きに至つては、到底官制改革或は官紀云々等と稱する其底根は生等は何と之を贔負眼に見るも、頭腦の輕重を疑ふ外なきに立ち至る者也。實に公娼は何人と雖も遊廓は社會を毒するバチルスなるを以て、之を一掃す可きの急は言を俟たず故に今般閣下は此際大英斷を以て飛田遊廓新設の取消を速に爲すを要する次第なるを誰しも確認する處也。同じ人間同じ大和民族、吾等の同胞なる幾百幾千の若き婦女子は、無殘なる哉生き乍ら此世の生地獄に悶死して、暗より暗に迷ひ十萬の有爲なる青年の生靈も肉體も、永遠の滅亡に陥りて再び宇宙にも天國にも其姿を現はす事なく、斯くて世は暗黑の中に流轉し、醜風は地上に敷き蔓ぶに至りては、實に想像するだに身に戰慄するの悲痛を覺ゆるなる可し。一體遊廓の存在は何の必要ありて之を公認する者なるや、或者は云はん『遊廓は乃ち其土地の經濟狀態を好況ならしむ』と。併し乍ら決して之等の附會に依つて天下の耳目を迷はさんとする一部の不判淡が言ふ如きに非ざるを生等は以て遺憾とする者也。更に之を精神的方面より觀れば尚更不安に堪へざる條理の續出するを如何、而して社會は益々暗澹たるを如何せんとするか、生等は賢明なる大久保府知事閣下の人格と個性とを尊重し敬意を表する者なる故、一層の痛憤を感ずる者、幸に閣下が最の遊廓擴張の不穩當をして直に之を取消し、以て幾千萬國民幸福と安寧をして其基礎の確立を計るを望む者也。

九段坂上の醜域

麴町憤慨生

去る三月以來より九段三業組合の料理店及び待合と藝妓家との間に内紛を生じ、爲に藝妓家は料理店又は待合に對し藝妓の招聘を一切拒絶したり、玆に

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

於て料理店及び待合は早速營業に差支を生じ、依て此後自己組合の自營上自分等組合員一同にて新規藝妓家を組織し、是迄の藝妓家に對する復仇的觀念の下に最後迄戈を執て之に應戰するの決心を示し、新規藝妓家の擴張を謀り、新聞廣告を利用して諸方より新規藝妓家の移轉を勧誘し、更に蠣殼町や淺草公園の如き賤窟へ手を廻し醜業婦連を糾集なして茲に自己營業を保持し居れり。然るに又一方藝妓家側に有りては料理店や待合等が如斯推策を立て營業をなすが故に、自分等の營業出先を失ひ困憊の餘り、之又自ら新規待合を造り以て彼待合連に對抗の策を講じつゝ有り、隨て目下此の土地の兩者に於ける對戰策は之が爲め殆んど戰慄すべき惡辣手段を弄するに至るを免れず、其の結果は此の土地の總ての各階級者の上に及ぼし多大なる惡感化を與へ、以て風俗を紊亂しつゝ有るは社會風敎上由々敷大事也。

今茲に彼等が現在に於て行ひつゝ有る實例を一二掲げ、以て如何に彼等が社會に向ひ風俗を亂し居れるかを參考として備へん。

待合側に於ては前記の如き場合にて、藝妓不足の爲め蠣殼町や淺草千束町方面より淫賣婦を引連れ來り、又は附近の娘共や主婦たる者等の虛榮心に付込み之等を甘言を以て籠絡なし、客の枕席に侍らせ居る如き其外自家の女中共に淫を販がしめ營業を補足致し居るが如きは實に驚く可き事實也。

又藝妓屋に至りては出先とする待合を失ひし爲め馴染客をして自宅へ引入れ、或は附近の素人下宿や宿屋等へ引連れ行きて盛んに風俗を紊亂なしつゝ有り、然るに之等輩が如斯して風俗を紊亂して社會に害毒を流し居るにも拘らず、之を取締る可き責任を有する處の當局者は一向之等を取締る事をせず、却て彼等に利便を與へ、兩者に對しどし／＼營業權の許可を與へ、以て之等醜業者の擴張を謀らしめ居れるは、之即ち公德を無視しをる次第にして、斯ては明治卅三年九月六日廳令第三十七號を以て花柳界取締規則を發したるとも、今日は有名無實の狀態にて其の處置を奇怪とせざる能はざる也。爲に此の土地が私娼婦共の稼ぎ場所となりて、淺草公園や蠣殼町に於ける如き魔窟地が目下自然と實現せられつゝ有り、而して之等醜婦が日增に加はるに連れ種々の弊害起るは睹易き道理にして吾人の慨嘆に不堪處也。此土地は外土地と違ひ、之等の取締は當局者も一層嚴重にすべき理由を有す、抑當局者は此の地勢を何んと心得居るにや、畏れ多くも尊嚴犯す可からざる處の皇城所在地にして、殊に魔窟地とは近接すされば吾人は實に是以上不敬の甚敷者なしと信ずる者にして、眞に恐懼の次第也。加ふるに一方には國家の干城たる忠勇の士の神靈を祭りある所の靖國神社とは最も近接し居り、殆んど神威域内に有るに均し、斯る隣接せし地に不淨きはまる所の魔窟が扶植存在するは淸淨なる神の稜威を穢す者にして、之等は畢竟當局者が、如斯尊嚴地勢を無視し居るが故にして、吾人は於茲此土地の廓淸を叫ばざるを得ざる者とす

其他此の土地には宮家邸あり、近衛の營舍、軍醫學校三島氏の二松學舍、其外著名の學校病院及び貴顯紳士の邸宅が櫛比し居る所にして、之等の良家庭内に醜風浸染して、終には風俗を害するが如きに至りては由々敷大事也。依て吾人は當局者に向て再々取締を希望なすと雖、斯る誠意無き當局者にては到底取締は不可能と思惟す、茲に於て吾人は廓淸會諸士に奮起を促す者也。

世は滔々として濁流に卷かれ、人は汲然として醜惡に向ふ、其依りて來る所を察するに之皆藝娼婦輩が横行して風俗を壞亂なすが故也。吁々如斯國家の風規を亂す醜類の撲滅を謀るは今日の急務にして、一日も忽諸に付す可からざる要件ならずや。廓淸會の將に起つ可き時は來れり、乞ふ卿等出て國家に害毒を流す所の藝娼輩を撲滅し、以て禍根を去り國家の安寧を保つは必要也。予輩も亦足下等と共勢を取るを豈に惜しまんや。

生ける教育は娼妓を造らず

沖縄首里
教會幹事　島袋徳加

義務教育を受けて娼妓となれる女子は算へきれぬ程澤山出來た。是は良妻賢母になる爲め教育せられたが家計困難の爲め愚なる親は將來の階梯を便つて開運の道としあたら娘を遊廓に賣つたのである。賣つた金で家族は生計を立てゝ行くとは全く野蠻時代ではないか、夫は夫しとて賣られて人に渡される女子を教育して倦まず熱心に育英し感化を垂れた恩師は誰れぞや。教育家よ？。日本の女子教育者よ？。卿等が六ケ年間も献身して薫陶したるあたら女子等は卿等の事業を水泡に歸せしめ徒勞に終らしめん其愚なる親の命に依りて奴隷の生涯に入るを見ずや。

僅かの金の爲めに御身等の事業は水泡となるを知らずや。眞情あり、純潔あり同情ある恩師は必ずや無視せず切齒扼腕して救濟に餘念なからん。若し實力なからんか、郡縣市視學に訴へ、視學等は此事を權限外なりとて教育者の顧みる處にあらずとせんか。屈する勿れ。宗教家慈善家に乞ひて救濟を仰ぐべし。是等も同情せずとせんか。獨り社會に絶叫して義損金を募集せよ。金錢なき爲めに不忠の營業を開くを防止するは是れ國家の事業にあらずして何ぞや。政府の事業たる論を俟たぬ。然らば同じく　陛下の赤子たり同胞たりと同情する涙は寄附金となりて集まり一家を救い遂にあたら人の子も賣らずに濟むものではないか。その遊廓業の源泉たる人身賣買が教育家の覺醒に依りて防止せられて初めて教育といふ教育が光を放つて生きて出て來るもので廢止運動よりも先づ防止運動が先でなければならぬ。此意味に於て教育が生きさへすれば娼妓は出ざる筈である。余は人身賣買防止運動の女子教育者間に起らん事を希望して止まぬ。

豐橋市の人道戰
自由廢業の成功

豐橋市 木藤冷劍

編輯長足下

時は五月下旬本會員の許に訪れたる年の頃卅七八才の男があつた、そして彼が諄々と説く處は「當市遊廓鹿島樓に四年前二百五十圓の前借で家族の爲め身を沈めた勝人事丸山あき(二〇)といふ女がある。彼女は最う寄る年波に、今は借金が益々殖えて行く計りで其儘晴れの日も望めぬ爲め、此際彼女を救ひ出し度い」との意味で語られた。本會員は之に對し直に快諾した。といふのは其事件に關する幾多錯綜せる複雜した事情を省みて、然る後決行す可き程の餘裕がないから――。其後一兩日を娼妓救助の手配に盡力した、そして十三日は即ち當市遊廓の樓主連をして心膽を寒からしめ、五萬餘の市民をして迷夢より呼び起した日であつた。同日午前十時前記娼妓に面會を求めて、樓主の驚異の眼から彼女を逃れ立ちて直に所轄警察署に出頭した。掛官に旨を通ずると某部長出で來りて一喝して曰く「一體君は此の女に何の關係がある」と。然し乍ら本會員は曩に救世軍士官の手に依つて自廢せんとした娼妓が悉く失敗に終つた事(勿論失敗でなく暴戻極まりなき當警察の處置の不當の爲)の理由を知れる故亦例の手かと愈々端然となる許り而して本會の意旨を述べ最後の議論が此通であると答へた。其處で太田警部が取調ぶる事となり、本人は勿論、本人の實父奥次郎及び樓主迄も召喚し長時間に亘る何事かの秘密調査らしい點があつたやうである。する内に本會員の友人なる菅非氏が來り、一寸話があるとの事に意の儘に從ひ行くと豈計らんや遊廓の樓主數名が直に本會員を取圍み、娼妓は必ず廢業を遂せさするから、此際之を是非示談にして貰い度い、さもないと悪例が跡に殘り廓内は不安となつて困るからとの嘆願的態度に出た。勿論夫を信ずる事は能ないから「悪例とは何の事だ英國ではお前達の樣な商賣をして居る奴は畜生扱ひだゾ!」大喝してやつた。而して「此女は私の最愛の妻だ、さうだ。私の最愛の妻だ!」と益々誘惑に襲れる毎に自分の意志が益々強固になり行くを確信した。

併し乍ら警部は本會員の申立よりは、寧ろ樓主側の申立てを從順に聽取した。即ち樓主側に於て自由廢業は廓内に大恐慌を來し、借金を借金と思はざるの餘弊あり、爲めに當方の營業は最早不安の狀態に入る可しと言へば、成程と答へ、又借りた金を踏倒し一家族として數年間一つ鍋の三度の食事を爲した者が喧嘩腰を以て快れる事も餘り世間體の善悪よりは實に不甲斐千萬なる者也と申立つれば、夫れ最も也と述ぶ。而して本會員の言は一々色を作して峻烈なる文句を並べ、二には法律を縦に何も彼も法律攻めと爲し、此事に關する一切の進捗は凡て法律に從はざる可からず、若し夫れ違法の事體あらば罪する事は法條に據り明白なる處也と前提して、此の廢業を飽く迄圓滿にせよとの事であつた。勿論本會員は必ずしも爭を好まず、要は只彼娼妓が廢業を遂ぐるを以て最後の目的とすれば、事の圓滿は望むに餘りある筈であるが、如斯宛然本會員をして始終犯人の待遇を爲し、掛官の言語と云ひ、態度と云ひ實に憤慨に餘りある程、或は哀願的に、或は强壓的に、宥めたり嫌したり種々の方法を以て手を替へ品を變へ散々に科なき人間をして苛つき、揚句の果てが示談とは何たる虫の良き事ぞやと思つた。拔緊褌一番廓の幟子を着るか自廢出來るか、二つ一つの決行を爲さんとさへ快心したが、肝は最後に於ても敢て遅きを悔いず、寧ろ如何なる怪手段あるかを觀察す可く、當局の言ふが如く所謂法律を執行する本官に向つて、兎や角異議を申立つる事あらば早速罪人となす可しとの意向に從ひ一旦彼女と共に三業事務所に行つた其處へ行つての樣子は諸君の判斷に待つ可き者で如何に彼等畜奴業者が卑辣極まる手段と方法を以てするかは、徒に世の道徳家をして涙滑々の思あらしむる處であらう。種々相談の結果は總て示談の餘儀なき事になつて、二百八十圓の前借金をして百圓に減じ、娼妓の部屋道具を卅圓と見積り、二十圓は現金にて出す事となり、殘の五十圓は毎月二圓宛の月賦にて消却する事になつて、凡ての手續をなし最後に登錄名簿を削除した。

苦心艱難の末漸く廢業の能きた刹那の、我が氣分は未だ嘗て之を味つた事のない、清々しい氣持になつて自分は前の辛苦を一時に下げる事が能た。而して彼娼妓と實父とが腕車によりて警察署の門前より輾り出す、其後姿を見た時自分は最早或一部の神經は確に、所謂天國の樂園に遊ぶ氣がしてならなかつたのである。

此事件に關し最も痛快に感じたる事は、常に本會員を目して「彼の男何が能る、自由廢業抔と物言ふにも加減がある」と嘲笑漫罵した或る一部の人達である。彼等は我を、の以下の者と見下して到底其廢業は夢想だに及ばざる所也とせるに、時は至れり意の儘に結果を得たるを如何せんやである。警察の面前や遊廓通路の兩側に我等の姿を見る多くの物好きの人達の大半は確にさういふ事になつたであらうと考へられてならない。加之結果の利害を擧げれば

一、家族の財産は差押へられず、前借金は三分の一に減らして立派に廢業した事

二、娘の喜びは實に外目に見るも嬉しい情の押へ難い程であつた事

三、樓主側から言へば兎も角合意といふ事であるから廓内に悪例を殘さずに濟むだ事

四、本會員は何等の暴行をも受けず、例令表面丈にても彼等と笑つて別れる事が出來た事

等であるが、本會員は之を動機と爲して益々社會人道の爲め死を決して、彼等どん底に陥つて居る娼妓をなして救ふ覺悟である。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

夢を見てゐる生活

有馬純雄

先達の某紙に『喜劇間男騒ぎ—粗忽者の貸車屋』とて、日本橋小舟町關本某といふ男が蒼くなつて派出所に躍り出で『私の女房が姦通した』との訴へに、夫は容易ならぬと早速係官が取調べると、如何も辻褄が合はぬ處から女房を呼出して訊ねて見ると事實は斯うだ。すや〳〵と熟睡してゐた夫が突然起き上り戸外に飛出したのだと言ふ、暫時すると男は『やあ之はどうも相濟みません、實は妻が出入の魚屋と嫌して居る夢を見たので、遂その—その』との事に流石の係官も開いた口が塞がらず、加之に妻にも散々背を擦られ乍ら歸つたさうナ。

此麼お笑草の種になる話柄は到る處に轉がつて居る筈だと思ふ。何故に如斯醜態を現すやうになるかを我々は尠くとも之に就き意を留めなければならぬであらう、が其原因は極めて簡單な事であらうと思ふ。

第一、日本に於ける過去の宗教及び道徳が宛然お伽話的である事で、就中今日の如き宗教は政黨政策の爲めに云爲するやうな夫程誠を缺いて無い筈である。今の日本は決してスパルタの時代に非ず、我皇上は自由と平和と人道を重んじ給ふ處であるのに？、其臣子をしてヘロッドたるを希ひ給ふのであらうか我民をして政黨政策の爲めと言ふより、寧ろ進んで人道の爲め、正義の爲めとするならば、是れ洵に皇上の嘉納し給ふ所である。然るに姻婚となる者があつて、身を危くし、名を汚し延いて其家族に迄も累を及ぼす消德、即ち中古以前に存在せる歴史を、聖代の今日之を矯めるなくして、之を擁護し、又是れを擴張するが如き擧に出でし事の結果は實に何と定つて良いか其實際の實蹟を發見するに六ッ敷き程世の凡ての汚穢極まる者より何汚穢の制度たるを免れまいと思ふ。

臘洪の時期は如何なる朝に於ても一人の哲學者ありて宇宙の調和眞理を講ずるに、陸は暴制劍戟行なはれ野に一人の詩人ありて民の憂愁を贊揚するに利慾のため家庭の紊亂其極に達し、父子相怨み兄弟相鬩き姑息相悔るの時に當て外に對しては東の櫻海幽世界の君子國を以て誇る帝國とは如斯ものであらうか。

『憎くては打たぬものなり笹の雪』と云ふ句があるが、人は自ら奮つて自然の弊害を矯正なすが故に進歩があるのである。最も多く自然の慾情を制壓する人民が尤も道德の進んだ人民である。天然物に向つて最も多く人工を加へた人民は物質的に最も多く進歩せる人民である、文明の福利を享け新らしきに活んとする者は實に自然に盲從せざるを要す。

故に迷信を去つて知識に就き、熱狂を去つて理義に就き、虚誇を去つ、眞理に就き利慾の念を去つて博愛の心に就く、是れ人類進歩の大道なることを了解せよ。

第三彼の野獸的天性を逸脫すること能はずして今所謂愛國心に驅使せらるゝ國民は、其の品性の汚下陋劣なる況して高尚なる文明國民を以て稱すべからざる者なることを知られればならぬ、或人女が好きで紳士と言へねば日本には一人の紳士は無いと言つてゐた。或る者は鷄の如く或者は犬の如く猫の如く英雄は色情を好む等と大言壯語する者さへ出來てゐる此の分では我皇國の先途實に憂へざるを得ぬ。

政治を以つて愛國心の犧牲、なし教育を以て愛國心の犧牲となし、商業を以つて愛國心の犧牲となさんと努むる者は此れ文明の賊である。進歩の敵である。そうして世界人道の罪人である。十九世紀中葉に於て一度奴隷の域より脫出せる弱き女を羅妄なる言葉の下に再び奴隷の域に沈淪せんとする者はこれぞ先天的惡魔の奴隷たる者此ぞ人道の敵である。故に此の輩を實業家とすることを恥るのみか實に非人道の徒輩人面獸身の徒を皇國より放逐せざるべからず、又文明世界の正義人道は忠對愛國の教義をのみを說く僞政治家に許さゞるを。

醒むべきは今

色川榮子

無益の虛飾にて飾られたる臥榻の上に横はれる寄生的婦人即ち男の玩弄物たる事が地球上に於ける女性の永續的最後の現象たらんには其の臥榻は正に人類進化の死の床にあるなりとは、彼の有名なる婦人論者オリブシュライネル女史の叫びであると尊しく我ら同人の叫びであります。

今や現代の女子の大部分は正に之れ無益の虛飾にて飾りたる形體にして男子の情慾を滿さんための道具にすぎない。

弱はき者よ汝の名は女なり汝は生涯男の寄生虫として否な玩弄物として活きればならぬ運命を有して居る者である。

と世の人より侮辱されて人間扱ひにされぬ、彼女の身體は、男子の弄ぶがまゝに彼女の清い凉しい眼彼女の燃ゆるが如き朱唇!!

然り天より賦與さし五感をも己が理性に基きて働かしむる事能はぬのみか彼女の全身に通ふ清き血潮婦人の誇なる貞操は汚がされ蹂られあらゆる暴戻の手に壓倒せられ　中心の光—良心までも奪はれて居ります。

彼女はすべての權力を奪ばはれて居りまする故人間の形骸をのみ有して居る一個の人形にすぎない、

男子は恰も子供が玩具を弄ぶ如く己が情慾に任せて彼女を玩び、それを滿せば子供が遊び飽きて玩具を棄てゝ顧みざる如くやはり人間の廢物とせらて、一生暗いそして悲しい憂日を見ればならぬ樣な境遇に陷いれんとするのであります。

斯の如き世の狀態、女を一種の玩弄物視して居る事が永續するならば滅亡より他はあるまい或人が女を奪ばざる國は亡ぶといふた如く女の權力は奪はれ

女の誇りとする所の節操は蹂躙せられ女の發揮すべき天才はうづもれてゐたら一生をば男の寄生虫として玩弄物として無意義の生存を續くるならば、之れ生けると云ふとも其實死せるに等しいのである。神は男と女とにそれぐ適當なる力を與へたまふた彼等共力して初めて完全なる力となるのであります。

女の力ーかくれたる女の力や偉いです。其の天眞とを輝さんがそこに男のなくてならぬ内助となり思ふ存分男子をして其の受けし天賦に從事せしむる事が出來る。之によりて家庭を圓滿に國家を完全に統一して發達せしめる事が出來るのであります。

然るに現今の社會を見まするど大多數の女が自覺もなく自信もなく無益の虚飾にて飾り徒らに男子の寄生虫として奴隷の境遇に甘じて尊き其日々々を空費して己が神より受けし天賦の特權を棄て其天才を發揮するをなく埋木として了ふ有様で御座います。

かくの如き狀態ですから彼等女性のためにさへ熱心し盡粹するものは三千萬人の同胞中其の中ば否な心ある男子の除少に過ぎないこうした有様が永續するならば幾年經ても國家社會の堅實なる發達を見る事が出來ないであらふ。國家の解體否滅亡は當然來るべき筈であります。オリブシユライネル女史の叫びも又益しこゝにあると思ひます。

實にかくの如き現下の女性は一刻もはやく自覺すべきであります之國家を憂ふる志ある男女の血に叫ぶ時であります女の自由を男より救ひて其の權力を伸べ其の天生を發揮せしめんが爲に戰ふべきの時であらぬか、男も女も覺むべきは今である。

救靈と公娼全廢との關係

S　A　生

公娼が殆んど罪惡の源因となつて居ると言ふ事は一般世人の認むる所である。然るに世人は此事に關して頗る無感覺、無頓着である、我々はそれを傍觀して居つても良いのであらうか。我々は廿六年間に六千餘萬の同胞を救に導く事を宣言して居る。然るに公娼を此儘にして置いては頗る困難なる事であると思ふ、我々は今少し此公娼全廢の問題に就て注意を拂ひ度いものである。此れあるが故に世人は其他の凡ての罪惡をも餘り感ぜず認むる事が出來ないのではなからうかと思ふ。此問題が人道上より、道德上より、衛生上より、風紀上より、土地の繁榮上より國家の體面上より、世界の大勢より致て如何であるかと云ふ事は今更茲で述ぶる必要は無からうと思ふ然し今近い實例を擧けて見るに孔子曰く『若き時は血氣未だ定まらず之を誡むる色にあり』と申された様に我々青年の最も恐る可く又た入り易き誘惑は色情である。吾人も救はれざる以前此誘惑に遇ひ公娼を第一歩として殆ど底の知らない様な墮落の淵に陷入つたのである。今考へて見るに若しも公娼が無かつたならば此誘惑には陷らなかつた事を確信して居る(如何となれば吾人は素人の女を相手にする程大膽でなかつたからである　如斯此れあるが故に幾何の前途有望なる青年が墮落し又平和なる家庭が破壞され、社會國家に幾何の損害を與へて居る知れないのである。然らば我々は如何にすれば可なるやといふに此事に就て祈り(殊に其衝に當つて居る人々の爲めに)又今一層救靈の爲めに奮起し世人をしてキリストの救を受けしむる事に依り最も高潔なる精神を與へ國民の輿論を高むる様務むるの外なき事を思ふ。諸君大いにやらうではないか。

既成廢娼の感

麻布青年會　曾根正藏

『社會から公に認めたものでないといふて貰ひたい』とは我が廓清會主事伊藤秀吉君の親しく一木内相との會見中得たる廓清要求の一節である事を『廓清』五月號飛田遊廓事件大運動記により拜承した。

實に左様である、私共が可憐の婦女をして惡制度より救はんと欲し、此矯風運動を起せる趣旨はそこにある。ですから當局から社會に向つて其非公認たる事を發表して貰へば、此方面は廓清に於て公娼廢止の目的を全うせる者として滿足し、隨つて風紀の振肅は日を逐ふて期する事が出來る。一木内相閣下の御解釋の答辯として、伊藤氏に對し公認してあるのでないといふ限りは、既に現存する遊廓即ち女郎屋なるものは、確に曖昧なる非公式の賣淫所である事が證明せられたと思ふ。其故に私は信ずる此非公制度を無視して大阪府知事が失業者に同情の故を以て、眞面目なる識見ある立場から其新規を公認す可き筈のない事なである、何之を正業者のやうに過去の口約をすといふが如き愚のあるべきではない。

大久保府知事も賣淫非公認に一致するは、啻に我等忠良なる臣民の熱望する處なるのみならず、内相閣下の意見に合致するものであつて、即ち朝野の擧つて望む處である。大久保府知事は須らく半夜人定まつて三思し、足下が國家民人の禍福を呪へる彼の府令の暴惡を低能兒ならすんば了解するを得ん。即ち要するに一木内相の彼の説は、吾人をして既に廢娼成るの感を深かしめられたのである。

大正五年七月一日納本(毎月一回一日發行)
大正五年七月一日發行　一部金七錢

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三崎町三丁目一番地　上村龍之助
印刷所　神田區三崎町三丁目一番地　博信堂印刷所
發行所　芝區三田四國町二番地廓清會　廓清發行所
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

"SICCAROL"

シッカロールは最近處方の製劑で汗疹、糜爛に對しては殆んど奏効神の如しと稱せられ東京大阪を初め各地新教育の助産婦諸姉は悉く嬰兒の「たゞれ止め」としてシッカロールを愛用して居られます

シッカロールは田虫、水虫の類に用ひても効があり又小兒期に冒され易き「クサ、タイドク」の類及輕微な切傷などに用ふる時は一面殺菌の効を奏し一面皮膚の回復形成を促進するの特能があります

東京神田　和光堂　大阪堂島

空氣清淨器

本器はオゾン及び殺菌瓦斯を發散して空氣を清淨し馥郁たる芳香を放つ

健康を增進し、快感を與へ、過勞を慰し、呼吸器病を治し、病菌を撲滅し惡臭を除去す

定價壹個

容器 ｝上 壹圓五拾錢
　　　下 八拾錢

藥液 ｝甲 六拾錢
　　　乙 三拾五錢

オゾノス球は進歩せる科學の原理に基く最新發明品にして一室に本器一個（藥液は一ケ月用）を備へなば常に

鹽原の山間 逗子の海邊の空氣

にも優る………居室、寢室、病室、事務室、學校、病院、工場、旅館等の必要品なり今や本器のシーズン、衛生家諸君の爲に特に定價の一割引にて販賣す、今すぐ注文を願ふ

東京大塚 高等師範側 三正堂

振替東京二八〇四三番